

雙魚堂日誌

大正十二年  
一月以降

特別

14

1919

586

35

40

45

50

大正十一年歳時記 (大増録)

毎年の日誌の尾に其の年間の大要を記す  
るを例とし本年も亦恒例に従ふといふべ  
かり、十一年の日誌餘紙を有せしが、  
さうして十一年及び日誌の首部に録するこ  
とにすべし

大正十一年と比較的多くの年をさうし最  
も不承り出有りと大隈侯の薨去さう、侯の  
病を十年十二月の末に不起と略す定ま  
り、臘尾を本年の首とし、他出も出  
来ぬ程に扱めしう終に一月十日とす  
其去あり、其の前もも葬儀の事あり、



ら心をもりし居りしが、偶々ある由病に臥し、愈  
く是れと云ふも余る言上葬儀の全向を  
守るることあり、國民葬と云ふ一新傾向を  
案じ、空前の大規模の葬儀を託言し、是  
を後一連なりと接合を忘るる事あり、若  
しは経験なき大なる努力をありしは、志侯に  
縁があるもの前門より早大の卒校あり、日  
読め定りするもの或るを葬布し、葬儀を  
負ひ、そのも千名に幾と云ふ大衆を以て  
く、その者の激論多く、之れを親ひて自ら  
を愛し、そのもをさうくの大位也、親友の余  
の日々の盤割の状を記し、葬儀あり、其

東  
洋  
文  
庫

原を支持し得べきや、疑河と云ふと、既述し、且  
慰問するものあり、或る事と分る、然り、  
何れも、方するものあり、忠告するものあり、なんじ  
十数年の河幸と、余の身体に、取次り、余の  
主業あり、然し、も変更することあり、若し  
是れ葬儀の行末と、生れ、日比谷原院に、空前  
の壯觀を呈し、全市を沸騰せしめ、市有  
者、<sup>市有者</sup>全國民の吊牌を、傳し得る  
もの候の徳の然らし、その所る、も、葬儀  
の、<sup>葬儀</sup>一歩を、誤らば、一大失態を演せし、七段  
す、葬儀あり、早稲田自宅の祭典と、如き、日  
比谷の大葬、時方の後、権を、後、四寺に

後し埋棺を終るまで、終焉の時を一刻も粗糲に暮らすことしむるを、余は、  
成功と喜ぶ心なり。願ふは、余が先侯に随ひ、  
四十年侯の董肉を食する所を大に、  
微力を尽し、侯の董肉に酬む  
耳。

先侯葬儀の後、籍部片付の事あり、侯の邸  
宅を改めて、徳興する事あり、その後、此の徳  
興を得て、記念館を建設せんと、の念あり、  
徳興に對する、恭賀の謝金も、大隈家に  
下り、その記念館建設の爲め、一萬圓  
を要する、此二萬圓、恭賀の奉集を以て、授く

東洋館蔵

於て、此書、下り、大隈家に、  
と、先侯音の聞に、分り出し、之れを、  
この、而、創あり、  
宅に、その、事あり、  
て、或人、と、半、歳を、費す、  
え、若、者、を、行、す、事、を、  
此、を、余、祥、と、深、入、  
高、あり、  
先、侯、傳、記、編、纂、  
我、れ、が、主、上、編、纂、  
昔、し、て、  
先、侯、墓、を、  
先、侯、の、

新編能登のこころに中一帯めを諸法と華  
録せしめたり也其詳細に録し之を言書其の  
日本社より、早稲田の出版部を頼り余二一著  
書と需めたりとあり也、四年一月は抄録に  
余の諸法を華一録せしめ五万頁約のもの  
一月間に刊行しりる大隈侯一言一行の  
也えんり、以時人より編纂の神速なるを  
驚く、著述の序に之を録せしむるも、  
一又法上下二卷二年来印刷に廻りしあり  
この漸ゆく本年の初めより有る事なり  
るなり、尚事夏迄中一十数回毎回五冊可  
上、こころ力もほきなりと大隈侯に告ぐるに

東洋同文

何れも名家の古詞或千巻と翻漢し其  
の保存すべきものとあり、其の法記の材料と  
するものと維新史とあり、其の資料とあり、其の選  
擇したることあり、法記の材料とあり、其の選  
と物に勝るものあり、其の数千七、八百枚の  
多きを遠くあり、其の調査の仕方と文の場  
の海濱集并に北紙に載せし連載あり、報  
知社亦大隈侯より録せし深き関係あり、新編  
紀念に候も其の古詞を瑠璃版に附し卷  
子として配布を欲し、余も焼くを提議し  
せしめたり、余亦之に附するの解説一冊を撰  
び、其の古詞、北紙より録するもの古詞の

結果どうも思へた通り録しおく

余の關係あるもの事業の文の場を回し印刷  
会社、回し出版印、活字排字、お中の特  
果を存するを得たり、文の場を充候のま  
事に倍する候ともいふを心せしむる一  
を此等よりし、善長後の業として新候と  
をを續うしめ、四大隈部と合体とを  
研究會を開くこと、充候存するにせし  
か、人心衆不お考、多く、人心を  
別と交るること、今の成績を前年より  
り聊の僅なるものありしを、此の幸と謂  
ふこと也、印刷会社と本年創立満十五年

印刷会社

達するを以て夏物に記念會を置き、五才  
田の増資と行ふを、規模を擴張し、今、市場  
不景氣を拂ふる、折柄、田満と拂込を  
り、前物に一刻八分後物に一刻五分の  
配分を為すことを得たり、出版部と  
頻りに好況を、前後二期共三刻の配分を  
り得たり、不景氣を拂ふるに、花子、素の  
間、如く、異教と云ふを得へき歟

早稲田大卒に、松を大隈、徳長を、  
後の業として、校規を改訂し、陣容を、  
と企圖し、夏の文、早く着手し、  
後任に、方面を推し、  
総長に、田中、徳長を推し、

人とも案ずりつゝ而倒るし田中と對する反感  
之終に劉流者たりしめたることは由縁なる  
之れを方の一方より見る而倒る醜し一難漸ゆく  
ありまゝに新侯首の尊厳河魁と又一難  
起る、方の半歳を經るも板親の改正終に  
成らざり九年を過るることるんや此件をばを  
委爰を披て後けり、高田と余とをばと  
委爰に加りしをしかば、るる實委爰の物な  
はるす、先を無し、而白くする物に類る心を  
考しんや

余の日記をも云ふべきを其書の予あり所あり  
物より散葉めりしを婚の三ろ六十路の

えつゝ一日も度せり為り大得なり田中を  
予部と無んし、在書日記に上げしもの  
五る部と婚の、近来回玉の價大り、騰昂  
し格別の珍むるものあり、稀ん本えんハ  
一部十田のむニ三十田と云ふお侍るんハ、田中  
某某の金買の山買と云ふこと、那事也、前米  
の在本日録に載せり、田中をいふも  
珍むるものあり、えんも、多くハ十田以上十  
十田より、七本を、五十田を委し、  
兼也、然るも、ある部ありん、恐る、七  
十田位を田中道樂と費し、るん、馬兼

馬券一もくるも一も買すもきくもくももまを余  
の貯金をも見るへきこも也。田舎のおこ七千  
円もいふ書と賭ひさう、板お見ふへきあ  
らうく近年書書を玩ふことを度山  
れと随時手とりつと一年のメあらおよも  
ぬ也

本年所得税の増額を言ふも若しくも多世  
帯しつ元り七真に大元也。幾人と隔月  
ころお十圓を懸出する案もせつに借入を  
ししと亦せざるを得ざる次第こいえん  
印刷局純出版部の手株一昨年以  
増出しつと二分純も受元り高典金

の増額もきくも。おはお便りの勝者も  
費用もは多く、迄つと二回の手入大分  
破損修理ももも必要するもか  
然るも幸ひ収入も多うし以て  
の費用も希し。通海船の二千圓許  
の借銀を償却するを得たるも  
お六千圓の圖書を売するを得たるも  
多し。おりとも●の幸と増へし  
おきも、憶をち一二おももあつ  
の末も人と死に溺しつる友人五  
りつるも得たも、いんも病中一時  
式の準備もかろくも関係もあ  
ぬ也



記しつゝ、一必要あり、其の如くしと従事其  
此に成の死をさう、余の如く其遺稿を出版  
せんとして漸やく印刷成りたるも終に其を  
終る能はざりしとを遺憾とす、公評に爲り  
早稲の中名の政院を待たざるも、其の  
の別荘を無償に借りしに、其の位にのみ  
こと、その事、其の如くしつゝ

毎年、年を更し、高り振るゝ、其の如くしと従事其  
しつゝ、徒亦う言やを査察するを例とす、本  
年一身上に閑すこと凡も如上の如くしつゝ、  
先之角無るも祝を可也、生甲斐ありしや  
至つゝも疑問也 大正十一年大坂日録

尚一二冊記を要するものあり、其の如くしと従事其  
久し男子生る、十四年其の如くしつゝ、  
其の如くしつゝ、  
こと、録する、其の如くしつゝ、  
本年家族に病者あり、其の如くしつゝ、  
こと、其の如くしつゝ、  
得たり、但し以上、其の如くしつゝ、  
婦、其の如くしつゝ、  
尚一事を漏らし、其の如くしつゝ、  
其の如くしつゝ、  
其の如くしつゝ、  
其の如くしつゝ、

の撰に到るまじし此年又か、多擧高し  
本年四月より今冬迄、五月申す迄  
式と名付けしもの付余も冬令より  
余の北付に力を以てし、此年とあ  
れど予の成りしを以てし、此年とあ  
こゝより一言する所  
と申す外に多く出でず、以後二回迄  
後し、此年の夏迄、此年とあひ  
日

東泰日記

変通書日誌

大正十二年一月以降

癸亥一月

元日

此天氣日光輝やく寒氣を以て、  
を傾六十ニ、  
ハ例によろ賀意を出さず、  
親しむ、  
る戯編、  
四冊のと併せ二冊架中にて  
各巻末のゆめと獨笑す、近年形式向、賀状を

元の一七撰抄を満すこと一般の例とす、本年二〇  
と平生ともし事定めなき、恰も福居の客のこと  
と日生の通り等、各備うゝ三花、夕刻、夕吹、夕  
刻の時を待つ

二〇

晴、風あり天候甚だ寒く、外出：甚だしく、相見  
禁絶物を海し無物を破る、例年皆熱海あり  
り、行くことを思ひまつり、まよひさまも氣  
起らず、午後光を伴て津田をさし、銀生、敷  
東市中の光景を見る、天藝、踏法、往來の人々  
吾多、多、日本橋、名、傷、横町：飯して、ころり  
の、出、り、お、お、お、お、二、三、の、笑、姿、刻、の、加、笑、  
幸三、も、今、の、若、を、交、印、計、り、亦、も、利、達、

二〇

晴、相見、天、氣、既、も、也、漸、や、く、熱、海、行、を、決、し  
御、平、行、李、と、油、の、一、言、を、在、熱、海、の、地、内、  
寄、り、裝、車、時、節、を、も、亦、も、家、を、見、し  
先、の、御、留、の、風、月、を、も、主、考、り、或、種、の、葉、  
子、を、賭、ひ、中、央、停、車、場、に、列、ん、だ、偶、々、真、時、  
行、汽、車、の、行、車、時、刻、迎、り、を、も、よ、し、を  
び、き、辛、の、し、と、馳、せ、つ、け、最、前、頭、の、客、  
車、に、投、ず、此、車、を、も、横、須、賀、行、也、真、時、  
行、の、車、を、後、尾、に、附、し、あ、り、大、船、駈、に、利

リ乗換を要す、北河原と川崎末、真鶴  
近用通す、北河原を行くもの論比行を止め  
とす、車中少く無く弊世帯の書と後して  
無聊をきき、銀正と云ふ小守、禮堂所  
少く就き其氏の談中、余の在社や  
の事を話し、主筆は余の給料八十田  
典金五十田と曾親の海難より十田と記し  
と掲ぐ其の尾は其の事十四田と記し  
あり、社の今更社民も言すと云ふ、余一  
讀一嘆を感ず、余此書の頻年と徴らぬ余  
と銀正と云ふ少くも、後後ありやと案じ、若  
年節と抽き出さつた見んが、意あこ多し

東洋報

湖を得て旅程中、昔々んことを飛ぶか  
る後と略す、大船野々着し停車時  
干あり即ち其船行の事念と後、  
横塞し居るを得ず、停立するもの  
也亦其一人也十数分を辛うのし  
化客も停立するもの多し、  
まゝ其具を感し、熱海客の海増  
へし、車中、小谷村の熱海に  
す、四府津野、洋倉市南と  
酒匂川と海より、中嶽を望み、  
二時、田原  
より新編を介岐し、城路を  
走る、往々トノ子んあり、  
此を往後、元

活きの家々今と修忍の間よりさき二時より  
真物に在りて下車す、軽便城路にこよ  
り熱海へ通すべし、旗道のため乗る能は  
がや山と此に自動車一を備え行えと欲  
し三十分間程ゆかに休憩し漸やく一  
車一を得て是より熱海へ三十分間見  
達する路定るるを金中馬力や自動  
車一を備へた以上多く時分つらん四十  
分ほどを漸やく達す、山の麓段を尾別  
館に為物を抱き、自動車代七圓五十五  
の金十圓出つく使分をい通退の別荘に  
く、おれを就し居る道にまゝの御つ誤り

可なり無味道をせし、蔵道工夫のいたるは  
設さんぞ、ハラウリ恒毛の一部をささき漸や  
く遊ばせたり、今月八日の改め若し  
あり、問もまゝの事とあり、晩をいとあはれ  
津一と異つたり、中田場をわたり、今訪ひ未  
く、大隈侯の泊の熱海旅館に中士を  
七材料一を得ん、見未くと云ふ、中士を  
傷多けたりとて一冊子を示すと見れば柳北  
の熱海紀行数篇を輯めたる熱海文藝  
也、余の中士を訪ひて更なる材料を探し  
へきをまゝの中田もよへす、道邊會支の橋  
上のお宿を今つり、滞在すの夜宿に供し

多岐先づ北谷に訪ふ、此谷にすべしと道邊致  
味をそそぐと溺らししをさぐりて松梅牡丹  
一種の味あり、東京より此の帯の菓子三種  
を道邊に贈る

四の

頃昨夜熟睡しんが今朝之三時の早や覚  
る床敷の端を墊し、在函文敷を讀む  
の況十四年の死行の大隈伊藤二公の記  
るあり、六時起床相おの後中由再来、日  
印刷令紙く打雷まきききを托してあり、  
道邊・今体とおおせへて散葉、先づ此頃

道邊の山麓下るる雪まんなる水口園を  
こころおそ引きき流を流し池を堀り園  
中一山屋を構ひ北向の用ニ供す、道邊  
此の村家の斗室に原々とりあ、道邊  
北の瀑布夜間眠を妨ぐるを流し、流し  
夜間水を金守に托し為下せしめたること  
を約しなりと、滞在市中余り取つても幸と謂  
ふべし、おしと市中に出ひ、抱き急と井上辰  
九郎も訪ふ、平あをアタにホテル、共  
せんと遊しなりもホテル、宿泊の客元満し他  
其を料理を弁す、熊のすとの電話の断  
り、已むるべく行へしとホテルに約し

井上を押しし海岸を削し例の水の量を定め給ふ  
董花をいやくし烟子を箱に平時は遠く  
へさうり麦下口を喰ふ午後を遠くは朝  
と舟生程りの後で既る遠くは舟生割に  
関する洋本教母を出し示さる、又刻井上利  
の道途余等のがりふあをさるく、岸上互  
いさまをも揮ふ、色紙程冊先人と共く  
ハ朝右統のりりマテ漸やく回復、向ふに  
如の之業を弄するを得、熱海の氣候  
此處に特効ある見ふ、し、併後井上叔父  
後の仙舟を弄する、道途のあ、昔昔機  
ニ海路の曲を弄し酒をさうく、と水谷を  
病し十時後と就く

五日

朝六時氣候悪甲午五時晴、昨日の山火の比  
免大石海路に墜落し、終り軒使不道こと  
く、道途去年の口徳を出し、らりの條下  
と改む、大隈花島高甲七病む云々、全うは  
報を受け、この報しあり、食後三人おれ  
へて散策先が海岸況より、熱海の大樹を  
仰き、其の偉大を賞す、地樹を太キさう、太キ  
の幼る大さうもの云々、梅、入る湯を、此  
湯を、此村の共同浴場、道途撰文の石





其に溪の面目を愛してなるを道邊とせし概し  
所に入る字士を越えを去るに就き大隈が  
右泊の物の子をも河八人と擡す保て久人庵に  
臥し合元を得す三時頃河をくく之を井言  
其河を根き道邊書の底中にて紀念撮  
影をわす、又刻の當り時時静まらざる  
三馬り定めのを見れば隣家の馬、その首の  
み戸より出し居るを認む、山羊を牽く馬  
とれ對し居るを一矢す、余此村の雅花  
を案す、浴中、道邊の二字を案出し、道  
邊に語り、道邊と比せこの山を形容して  
自ら道と名ふ、君の存在を道邊村に在り

と呼び、地名おのづからありありあり、  
道邊之を可と一余に希款をむせんことを  
もとめ款を掲ぐべき位地を定む、道邊且  
云滿地の園水の園と名つけあさむ、らりり  
道邊つとと改む、此園のゆゑも余に  
款面を挿むもととす、余識し、ちん、就  
て字を案す、此夕、道邊と名と對照し、  
を吃ら味むるに在也、人多く在、漸やく回  
復あり、毫も試み、自在無のせし

時、此村も情状を得たりと喜ぶ、余志をく

北海より旅費に相し或る所の数十口滞り  
せしこともあらんと熟睡を得しことなきを  
の在に所して毎夜此代を得流石に不代  
先生の名を法閑とて睡眠を合すること  
を得と主人に謝す、此の今昔の在統養を可  
也相お後にお高にせしと法并を味あ、高  
士屋主人石海喜一其次大隈侯より泊る  
時のころを終る、其際より三條公お挨拶を  
祈し大隈井上伊お山おの四公を皆高士  
名に彼すとその但し年月詳にうらまひと  
まふを以つて高時の宿帳に就て検索を  
祈り主人流し具つ里田岩崎導りお

と海の名をうらまひを終る旅費に草子記あるは  
るを暇す、午後高道迄今昔と散策梅園  
を訪り、其代遊る處に一花の開くあるを  
見す、帰路城道より高を見り、三年程見え  
る間、熟いの変地形を度し、東海の款  
無き旅のころ也海岸の樂室に入り茶室  
酒具に三人試毫室に入り、余遠路  
村在の四字并に酒路を越す夕刻  
内夫妻お招いん今昔と共に翠光園に  
入り浴後杯を肴とて、熱海に在る大酒  
樓に、高道回く此の卒光園と此の園高お  
遊し稱呼し、まきらりし、君の命するごとく

舟の園を透籠つと改まらる。荒すと、八日分  
津とせし。帰京を伏す

七〇

快晴、気温四十五度、西風の急者の一陽、三  
角形の棚あり、棚上天井に達する間を尺五  
寸許の空間あり、造り造之れを何をつとくべ  
きや種々あるも得すとす。余は紙一  
枚を得たりとせし。今朝後三日、襦袢他  
の装飾、例に因するもの多し。之れと調和  
せしめんことを、造り造の模範丸七を以てし  
三角形と與むきを深くとるの便とあり、

尾の家を改め或個の模範ありとす。之  
れ、寸尺のおちよとのちんと、造り造  
まこととあり、直にハロー、サジエツシヨシ多  
余もその元縁のありを模範を試心せんとす  
の事あり、之れを置くとありぬじ、例の末  
をせしめんことを、造り造と志きりよとす。こ  
今朝七種粥を喫し、念後造り造の造り  
造り造り、造り家のあり、造り造り、造り  
を造り、墨の刺り等を惜しめ、山ありと  
造り造り、造り、造り、造り、造り、造り、  
士屋を、造り、造り、造り、造り、造り、  
の造り、造り、造り、造り、造り、造り、

延の明治十年八月廿四日  
立夫人七日付シ夫人の年廿六才従者田島  
十二名并其の来遊りぬ此十四年一月十三  
日二月九日也侍在此の時夫人日付侯の年  
四十四夫人三十四才従者八名外に夫人又  
同貞雄ハ尾政文日付とあり、高吉屋又  
と旋法中、安田を治中と教実を朝日平  
子のみ、就き新字紙に出さるるを語り施  
和とぬめ等を以つて多敷と取ら、午後分  
と教実物と辨るべく、書道延余日為  
木宮祭の折函の唄ハ麻呂踊の古歌  
を書す、晚而遊道と快談辨と書す也

延者酒を食ふ、如此と余の初めを思ふ、不  
延七十或年常つて此ことなりと語る、  
他原の可き一徹余も是の如くと祝せさ  
つと得る也

八日

晴天氣朗く風無し、朝露の後ほ雨を  
除去、今日の會派とせ、ゆゑの途こつて、主人輕  
便傳車坊とせ、えんとせ、出立、例の別荘  
横所を久し振るる、きき、遊とせ、五柳  
生の家と名つけ、書址をえ、今、今、其也

の段ちきく為る一嘆を感ず、八時半合衆の  
車に上り、道と別つ、時、道多々の客多し  
と覺し、きりらあまの混雑を、一時、  
一と真勢を、東京行汽車と連絡  
し、軽便車、乗後、十一時、  
止、去し、待合せ、三時、帰、  
午後、天気、つ、き、刻、  
十日、暮、新、祭、并、午後、  
内、状、判、り、あり、外、賀、  
一、万、路、に、接、す

九〇

所、素、臨、美、村、高、橋、友、  
以上、弘、花、交、

未、朝、早、熱、海、浴、中、の、  
し、り、古、北、高、橋、奉、  
拍、卷、題、署、し、の、  
教、あ、つ、時、い、  
元、洪、四、字、  
所、田、に、  
店、二、  
浅、  
道、  
ん、  
新、

十日

此朝車の雪すれ、定破んはも風あり其れ  
甚也。此日昨年大隈侯永代之日也。十時よ  
り護国寺に到る。墓石経名也。成り一週年  
に方り先づ墓前祭を行ふ。坊狭きより  
又就成系に寄附方面のよゝかあり武市  
等五十名祀に居る。此官の家名弘  
先文を讀む。徹以徹屋も早稲田大を以  
つて文の物向をまじり、定こゝろ成の祭典を  
る。此き親あり、侯の碑前には墓の傍に  
あり親族一にお家職一にお意以を二にお  
増田宮業社長を名にお衆奉養後を以て作

日中の一日も、華表を早大の献する也  
西運場一層の壮麗を以て、祭典終り、侯の  
舊邸に到り、倉をこ、午後の細雪を受け、  
午後二時祠堂に移り、西運場祭を行ふ。  
後宮隱宅の庭にテントを張らう。合席と  
する。来合者六名許。三時半、祭典全  
く畢る。後宮に而し挨拶をありてこゝに  
る。由半後旅館を布し、夜更に入る。坂口五定年  
より、船の子を好む。

十一日

此朝、真の朝、増田宮業社長を以て、終り

家子旅費と兼す、ある入り文三冊ある。

十二日

晴、寒氣漸去、朝早煙を捲くと禁物おをぬし  
才三冊成る、山田侍代来る、山崎熱海へ行くこと  
つきはゆき、おきき各二三を托す、午後外出  
る巻に紙葉を捲ぬ、又珠浪客に利り、藤巻  
公の執本千禄字出一帖を贈りてくる、久江  
成(と)未(と)文の場分出版の東西文の調和大  
隈友造(著)今の執本

十三日

曇天、とれ森湯と白佛車、とれ大隈友造を  
山の邸に訪ぬ、侯も山邸のあり、家親用の  
家屋一棟二戸文の場分のもつ物なり、とれ  
贈具の原志を謝し石を捲、物す、とれ  
種と幾次、とれ山の邸を三又け、ゆき早  
稲田の邸に、四つり家屋を捲令して  
家、ゆき、侯も、醗酒三大瓶を贈ら  
る、閑をいそ、理好友、五時ら、梅月、この  
印刷舎に暇欠の、おの、富倉をもつ、とれ  
贈ち、一冊の、流況を、おの、ことし  
落村、おの、二冊、おの、日本、おの、領、おの、  
未状

風疾、高須栲河田村保、真崎典二、  
初、中山殿の御友田打、推易の属、  
不切、教、其、を、押、之、も、内、お、と、電、紙、を、交、  
也、午、後、日、留、文、二、中、司、の、号、校、の、件、と、訊、  
去、る、真、崎、村、次、り、し、し、可、也、三、時、大、雨、  
あり、庭、に、出、て、遊、く、雨、に、乗、り、し、禁、物、  
四、冊、を、お、す、十、枚、  
十、考

十考

今朝のくく雪あり、電、突、交、降、る、  
村中田、池、を、古、池、兼、三、身、接、古、池、  
化、主、の、由、三、十、日、押、  
を、納、し、十、七、枚、成、る、  
口、出、方、多、  
一、米、田、三、大、使、  
其、の、名、を、  
い、く、今、も、  
十、考

十一

町、所、海、部、  
吾、の、軍、  
六、竹、す、  
と、納、し、  
十、考



後如所記の通り日本国を被賜賜の徳意に感  
ある今の提議を三十年記念会と開く事と決  
し委員十名を挙ぐ

十七日

時、カイン口前、烟山専大印の被賜賜、朝禁禁  
秘あを秘す、真此種おのり、真守見ある、茶  
お、坂の上、茶の、お状をある、因代英一十年功、高  
峰米、茶、ら、動物愛護会、規則を、寄  
せ、ある、此、お、出、居、の時、余、を、進、て、入、入、を  
、入、入、を、する、を、お、附、の、料、理、を、と、お、  
ハ、入、入、の、反、社、中、を、お、飲、す、日、時、印、創

會社の為の、入、入、を、進、て、入、入、を、  
、入、入、の、為、の、入、入、を、進、て、入、入、を、  
、入、入、の、為、の、入、入、を、進、て、入、入、を、  
、入、入、の、為、の、入、入、を、進、て、入、入、を、

十八日

時、朝、禁、秘、お、を、秘、す、十、時、印、創、會、社、に、列、り、登  
、入、入、の、為、の、入、入、を、進、て、入、入、を、  
、入、入、の、為、の、入、入、を、進、て、入、入、を、  
、入、入、の、為、の、入、入、を、進、て、入、入、を、

十九日

時、朝、禁、秘、お、を、秘、す、十、時、印、創、會、社、に、列、り、登

負分をいふを一二の事を協議す、二時由書取の  
五卷十巻の古の調法にてある、古の記の事  
年形期記にこの通記をいふ

二十日

晴と乾の秋多紙の考取物方々の注を傳ふ、林松  
栞を採す、午後出版部の重校會を臨み、終つて  
文の勘定を移すに列り編輯會に決む、去回久未  
死去三月半状をいふ、又考取く七日抄取す、  
出版部も一月間借受二月迄満の約也、其  
時典二〇〇〇物を採る、並木光らんと七物を採る

二十一日

日曜

晴、松雪米もよ、海内奇觀(萬曆刊本)を採ふ  
價は十圓也、玄熱西山田舎記もよ、午後元  
日休出遊神田の東洋キ子マ館と映畫山七  
尺、凡月本に採る、とらふ

二十二日

晴、時折東南風吹き、朝氣暖氣をもいふ  
也、早稲の借入金、の四五円、及編校會  
二千五百円、この約年を差入る、内各  
部、電報来る、以上来る、測の臨時注釈を愛  
く、朝鮮の生書、壽昌、其十四、其不、不、其

即車坊、又高橋源一、中身法、午後登校大  
隈元侯御会講を末一而建桑委負合、臨  
下、内子産を禁じ、金え、金と光とは  
其居、地々、在熱河内、道、出状と  
是より、宗湛日記と、管内、貸付投郵、新  
采林羊一、も、曾祖父祖父年、忘法、安の  
葉子到、夜来、小南

二十三

前、所得稅府稅書地租電話料、三、五、十  
三、四、納付、松雪、中身、複米表、公平論  
法と、格、本、二十、四、五、印、外、二十、四、計、四

十月、海内、言、親、代、價、の、由、拂、金、五、百、兩、次、り  
寸、珍、本、二、冊、郵、送、し、来、り、婚、入、に、決、す、江、江、采  
林、出、状、兼、一、考、を、送、り、午、後、田、中、穂、積、本  
記、金、子、馬、法、出、状、を、考、換、ひ、を、る、こ、と、を  
考、見、し、ま、ん、を、考、り、し、神、任、衰、弱、を、犯  
し、考、校、の、教、授、を、辞、す、ま、ん、を、言、ひ、出、し、感  
指、中、一、考、と、格、り、三、の、考、を、抑、制、し、こ、を、る  
格、を、考、し、格、又、入、る、

二十四

朝、日、雪、霏、り、行、村、を、脱、き、出、版、神、の  
を、考、り、廣、井、森、崎、本、記、在、熱、河、内、の、

電報を交し、明日行く方を報す。午後外出  
を慶し、顔面、教員を拝すも、直道大江  
と、亥門、森崎多賢、才の為ありす。今  
津、八一、原井一二、此を交す。

二十一日

雪あり、雪出、暑熱、海く、地く、線電、こ、家、今  
津、八一、と、同、付、の、都、会、を、一、日、延、び、し、地、内  
、電、報、を、交、し、今、日、は、速、達、郵、便、を、報  
す、小、久、江、村、一、月、次、池、邊、を、内、話、し、て、去、り  
石、川、三、中、山、田、教、成、川、上、法、願、寺、訪、午、後、大  
雪、風、を、冒、し、神、田、に、物、を、持、り、又、別、ら、こ、こ

色、園、積、雪、三、寸、金、子、河、次、と、し、豆、本、松、十  
冊、小、色、と、し、三、寸、三、四、程、の、の、時、家、急、と  
重、複、す、九、一、何、何、内、と、し、大、雪、を、し、軒、使、不  
通、去、院、見、念、す、べ、し、と、電、信、を、う、同、様、に、す  
と、今、日、方、、電、報、す。

二十二日

台、能、堆、雪、<sup>七</sup>寸、許、人、を、倒、し、危、樹、の、雪、を、拂、ふ  
村、井、山、行、く、二、三、田、道、を、今、日、津、八、一、と、し、す  
と、其、て、是、を、う、金、子、河、次、に、出、状、を、報、す、  
二、月、二、日、圓、山、銀、堀、合、集、會、を、林、九、日、の  
前、早、大、銀、念、報、を、う、通、達、列、る、内

山有三月とす也

二十七

時、利珠を以て時、法身、功十一時、内、蘇を  
令、就、二、功、を、後、す、由、路、凡、月、を、二、飯、し  
村、に、出、店、二、三、三、等、り、由、書、二、三、三、法、功、を、  
抄、代、二、十、四、郵、送、二、後、海、島、久、時、内、也、送、  
二、出、状、を、あ、る、す、送、麗、錦、瑣、語、の、各、好、  
と、整、二、記、二、冊、と、す、す、二、ん、を、前、年、歌、ん、二、  
好、も、の、二、し、る、好、縁、乱、え、と、も、二、好、助、  
の、感、あ、り、用、に、乗、じ、て、此、の、号、を、執、ふ、山、田、河、  
心、熱、海、と、も、地、身、也、送、の、信、言、を、信、あ、二、

時地震あり

二十八 日曜

時、今、月、二、三、と、い、ふ、出、状、を、あ、く、先、書、を、報、し  
印、箋、二、枚、終、り、来、り、初、め、文、三、六、二、に、  
内、山、者、三、十、五、坊、内、山、二、石、油、時、報、改、味、  
二、氣、不、ふ、き、余、の、施、法、を、あ、り、し、め、三、  
時、留、二、已、し、も、  
田、配、本、あ、り、  
二、電、法、二、三、十、日、の、校、視、の、信、打、り、  
又、二、延、助、を、報、す、



へしやうを満す、今津にハ一熱海を治すのきこ  
通判を(四時)梅月ニカスに治すと今  
しこの御印刷の先本を察すにつき内飛  
す。

三十一日

時、母共孫を此状に死の重積判り、紙作  
合持る、身持、今朝着の去書山骨其を  
控紙に余りの前の後紙を録せしめたるもの  
六頁登載しあり、ハ又江守一社務ニ付身持  
来脚坂口五基年、身持、山田穀城十時より  
来物、一、つり、引つ、き、山陽邊に、つり、と、草

紙やしの四時：むら、已、年、二十、田、を、す、  
又、去、書、山、骨、紙、を、望、つ、き、物、を、腹、痛、吐  
高、困、し、去、熱、丸、を、服、す、跡、を、中、き、去、書、  
を、去、す、終、打、行、二、方、の、内、方、知、本、成、す

の二月

一日

時、母共の吐瀉、え、と、能、力、無、し、從、し、勢、合  
：身、の、り、ち、ひ、ん、ハ、熱、海、行、を、決、し、十、時、家  
を出、で、神、田、ニ、集、子、ハ、又、車、中、用、の、圓、を  
と、と、燻、の、を、中、央、停、車、箱、に、入、る、と、其、本  
ら、荒、干、の、時、百、あり、也、一、編、を、二、枚

印刷部此本第百十三号の「路村」の如く  
うき出す。十一時十五分の汽車に投下し、車  
中、灰塵、汗、塵埃を浴び、吐瀉の吐瀉を  
腹部に不快を感し、中食を廢す。意識  
が十二時過ぎに空腹を感し、午飯を志し  
たむ。路を過り、其路に着き、自動車を  
を僦し、休憩せしむ。熱海に向ふ。道の前  
の降雪、漸やく融し、道路泥濘深し。  
遠米、旅費、人を僦し、荷物をおく。路を  
石に到る時、四時に出る。道は、風、雨、雪  
と交々し。既、金、銀、あり、今、時、七、時  
りあり。北行、来る、四月、早、大、に、本、行、の、大、腹

光、候、進、善、者、に、此、念、を、業、空、り、附、者、相、念  
に、海、留、ま、ん、と、す、ま、バ、ジ、エ、ン、ト、の、三、安、本、を  
道、に、是、に、清、り、ん、と、す、也、道、迄、四、月、五、日、ハ  
出来、ら、ん、と、云、ふ、物、を、又、す、ま、し、程、を、お、候  
し、未、漸、か、く、一、安、本、を、得、宿、を、共、す、と、  
早く、寝、こ、れ、く、腹部、の、不、快、後、後、漸  
やく、快、あ、れ、を、得、ら、ん

二日

早、元、の、り、く、善、業、を、受、ふ、腹、部、全、く、愈  
わ、道、迄、も、し、大、腹、光、候、の、揮、毫、と、し、  
此地、に、信、り、る、信、義、相、親、の、四、字、款、を



道邊自之雙劍にしほりものをえり出し  
余の鑑定をせしむ候の由あるを云  
ふにありし年田のえき等の代筆たるを  
為歟大段書とあり二款の印あり朝  
後道邊とあり一は建と敬業所に出  
天和元年美濃河内直の書とあり  
団(近之)伊勢底の後巻し(二枚)  
を贈り、棒括両巻丸巻を幼の寸本書  
函甲乙二種各五個の作製を托す月中  
次出来東巻く見入し荒極巻、洋  
西洋料理とあり、午後道邊方、  
橋上の巻首の松とあり道邊と漢語を交へ

三日

田村篤魚の上野淡谷を翻讀し約  
半冊讀了  
所用を済みんば、橋上の切に止む  
七今日の清左と決し、橋上に出首  
者時方後す、午後會津日付梅園  
の、前月湯河の時一花七用  
今を六合あり、漸やく見  
例年、比すんば、其代を  
動き葉を弄す、道邊の物

念心の協に揮毫し、又出書、帖の書詠に  
魁字を心り、又石川菊園ハ、此刻の印  
を贈らん、書を謝せん、三人寄、合揮  
毫の三字額(文云、金石縁)を心り、念  
懐、とて、菊園ハ、改、とて、又、山田三平、  
此、とんと、石華堂の額を心し、外、三  
四枚成り、一浴後、乳香、爽快を乞ふ、晚酌  
、往々の馳走あり、方、是、不代の、以、免、元  
氣無く、余を強く、え、七杯を傾け、酣解  
寝、就く

四日

晴時、方、是、とて、あり、え、り、り、松の、免、を、お  
初、り、り、是、とて、念、心、に、托し、初、終、後、別、を  
告、く、道、道、念、心、は、許、便、の、停、留、場、と、見、え、  
り、と、来、り、九、時、五、十分、を、車、に、福、村、所、に、  
一、番、客、の、輕、便、立、往、生、す、る、あり、為、あ、ま  
そ、オ、の、乗、り、り、車、を、以、つ、て、と、推、す、る  
と、ら、う、荒、干、の、時、を、費、し、辛、く、い、湯、原  
に、達、し、立、往、生、車、を、こ、こ、と、あ、め、め、る、平  
其、緒、と、あ、深、き、東、行、の、汽、車、に、向、  
合、其、に、投、す、時、十、一、時、三、十分、也、亦、田、原、  
二、例、の、鞠、め、し、を、婚、心、壇、辛、平、備、録、  
こ、こ、い、法、を、家、つ、と、婚、心、四、府、津、元

乗換、三時三十分、東武駅に着、其の自動車  
を倒す切電、車乗の氣候、名に喜ぶ  
場田吉史、上乗物を贈る、四五の雑  
信に接す。

五の

時、朝日新聞を草子し、正午に到り、協会の  
を田打子、郵船会社を以て海郵船  
会社新設の件を草す、社内に出立を  
す、新設の海木以て印を草す、出版部  
国民の日本史外を配本、午後日印刷  
会社、新設の海木以て印を草す、出版部

と分り、三時三十分、海に着、其の協会の  
す、五時、自動車と倒す、紅葉坂に  
き、高田前、海と飲り、席上、協  
し、件、協会の件、草す、協会の

六の

時、森の三、和、正平、坂田、増、五、印、東武  
古池、業、三、三、奉、衣、不、意、母、代、我、生、十、五、日、掛、了、  
十時、三十分、出版部の重要役員、三、二、の件  
を協定し、後、高田、海、田、中、(統)と、新、協、会  
の、体、格、其、他、の、事、由、概、す、海、路、本、心、珠、環、閣  
を、訪、り、得、る、事、を、し、五、時、内、海、又、意、に、報、り

九、<sup>工</sup> 齋堂住持宗部、壇守と在、一行せし晩  
を其より経福社倉り、怒ぶを論議す、  
狼十の物此、横山有菜とてす、

七〇

初、手取雪物とて、旋糸を草す、度井一  
末法、十一時、師匠刷の重役、寫と臨む、  
の地、二坊、新菜、口耳の二坊、指、  
生他、件を決し、二時、廿物、山田、  
城、とて、其、紙、信、今、祥、う、石、塚、  
を、街、と、此、の、も、店、と、過、う、一、二、の、  
之、の、今、何、一、と、と、久、保、盛、丸、の、  
崇、禪、論、を、送、り、来、る、二、木、千、年、  
事、也

八〇

今、初、積、雪、七、寸、久、保、盛、丸、の、  
禱、み、半、り、と、費、す、午、後、光、と、  
四、二、二、の、回、と、  
内、二、十、四、  
元、夕、刻、  
あり、今、何、八、一、と、

九〇

明、坂、上、  
時、坂、上、  
時、坂、上、

リ合致を云々す、古池素三と寺門勢好  
之長編一紙秋月古雪の印謄と藤山旋  
海と著して時とありす、藤村ヤ好と中川  
柳好と贈る、坪内道造、浪木辰次、横山  
有兼、出状を有り、又丹美原平、藤村  
十好を郵送す、午後、筑石生強宗、神論を  
讀み、故に土岸に折向す、

十日

晴、坪内道造、横海の雪を被り来る、ネーブルス  
若中村、近午の徳元、きり、横山有兼、大坂  
の大賀壽吉を討ひ来る、午、松を細巻りて古時

百流す、此人ダンテの研究家、往々ダンテ  
に就て論をも多し、山田海旭、今津八  
一切、其の書状を有り、小文江と電報を  
交、印刷舎化の身を交す、林有秘抄の勢向  
十枚枚、その後得る材料と補抄す、坪内  
道造、其著、新と家達と社名を修ら  
る、出版印として、近刊二種、肥本と交り、爪  
哇のボルボドールの書、五枚、日印の手、うし  
後考、以る、晩間、文三来る

十一日

紀元

晴、加賀、雪の中、増子来る、改、五、土岸大

石理田村功、堀内道進の江戸番と護あ、  
坂の大名、藤村や好を好す、午後本町の山本  
と幼あ、真治桂造り出京二兒と伴あて身功  
坂田増五郎とすま之。三浦島舟功、五十五  
旅のり味増十三貫列達、今甲六二  
すあ、二本之和装本お揃二個箱入

十二日

昨、立朝群が四五流とす身業、文の場と海  
浪集、大隈友の近境法と載見と、余の  
法法を七とあ、乃ち一時百餘り法法を尊  
柄中あ、古池高陽山人の法法山本を好巻

上野、栄三、中村芳唯と好し、今甲六二  
の件、三月十四、今見と約す、も是の江戸番と  
法と、和名自平、来り、物と好す、午後出游  
浅草の山本(浅草念)と徳軒と茶女、多  
、徳一、中村芳唯と好し、今甲六二  
銀り支店、角助二板押と山本、今甲六二  
成、大勢、今甲六二、今甲六二、今甲六二  
集、今甲六二、今甲六二、今甲六二

十三日

昨、廣井一、桑脚、美村、増子、元一、今甲六二  
来功、文の場、今甲六二、今甲六二、今甲六二

勝入り多し、方廣井森邸と協誠下、大賀奉書  
克く出札と見ゆ、又須美衣衣等、中四段  
行支店着放、下者二枚、お人とも、お谷  
出店、葛根を、京より来た、贈入り代、價三十  
圓也、十一時、日、印、別、人、を、祀、に、別、り、臨、時  
、重、復、念、を、し、西、き、工、坊、建、築、し、件、を、場、元  
、三、時、家、に、均、す、中、村、若、唯、三、向、す、又、大  
隈、侯、と、為、氣、と、少、き、見、寄、札、を、見、付、す、

十四日

昨今朝伏見宮、四葬、琳瓊閣、を、本、若  
二個、お、冬、久、須、美、衣、衣、等、中、村、若、唯、奉、書、

中、の、四、也、を、懸、記、し、又、旋、程、を、考、す、加、加、尺  
、三、中、の、し、其、出、夜、三、入、り、道、通、の、道、若、唯、を、記、

十五日

昨、身、早、大、中、村、若、唯、を、記、す、十、時  
、し、出、版、部、格、上、二、大、隈、若、唯、記、簿、裏  
、今、を、い、ら、ま、き、三、時、に、記、帳、し、し、り、を、協、誠  
、す、折、耳、而、

十六日

為曆元日

雨、あ、り、外、温、暖、と、感、ず、鳥、啼、き、魚、お、ど  
、二、連、り、雨、を、水、力、電、氣、力、を、め、り、為、ら、ま、し、工

物も多く夜業を度しつゝ、ある折柄名の降句の  
きつゝく潤海をえ真の貴皇の價あり、田比命文  
二印事功の午辰を興りてそ我に視る  
と流しちのるこにさる古地素三事、龍  
と華しとを給をきさ、中山の舊友田打  
りしとと都を飽り来り、遊をめぐり、五時  
らに四谷三河屋、中三回隈門合をひらく  
身存る西久保弘道地由文の中、あ三十六  
名余の上、一休の漢説をうす、洋更ら  
雪降る

十七日

積雪す許、大谷光盛玉華園(亦二〇京部)に

通に到る、島名義の治生の中、株配り老  
割五分銀収、道息の舊術論を讀む、森脇  
令秘、つぎ身訪、山田信尾鐘を来り、関太  
印身上の件、月を又を考へ来り、田村権助  
らに東の、中山の、おは洛一、木山代、五月  
郵送す、関と返、函を授す、真の行、城未  
二人、身功物を贈り、新打を和印、創代三  
月、鈴取、珠塔、冬と物あり、二十、月、拂  
度、古本、年代記と婚、山、四谷三河屋  
紙、体、字を、買、く、来、字、三、十、五、花、喜、多、吟  
吉、洋、行、中、の、秘、案、を、渡、す、十、時、印、電

十八日

日



晴大田為三印回公設場存、紀元、  
身旅、食、未、  
身、午後、  
訪、  
拂、東洋、  
三河、

十九日

所古池、  
政、  
者、  
田、  
右、  
購、  
村、  
わ、  
出、

二十日

今朝、  
分、  
廿、  
し、  
関、

午後文の揃合海防集と揚々心と大隈  
侯進懐の余の談話筆記を校す。早大現  
工科一読配本宛名宛文三本ある。午後  
後也

二十一。

今朝又あしく雪ふる。朝来進懐談話筆記を  
出き直し筆りを整へて成る。前日実を  
洋行物類記念と七紙を贈る。森岡本  
リ台紙を揃換して長る。高橋源一が去  
日東任道著出所の表題の押さをもと  
余も七と云い流し七巻。中村善雄より書  
文の揃合と進懐二冊の配本を交へ午後予

進懐の紙の底と物名二三の圖とを携  
於書本に全十冊の西平海防代抄海防  
中二巻合して七と云

二十二。

坊屋井一馬の書札を流す。関下中  
某也田代英一馬の西平海防代抄宛を後  
午後新田に出る。物を贈る。之は小澤隆  
一紙也合して某也。

二十三。

晴古池より高陽山人淡絳山紙一振を贈る。





後時時に乘じて出遊、海子段公局、天知殿  
に花園を繕ひて、幸四段の映畫を見、先  
回付するに金田に致してこうする、不在中、  
空際、即人龍集、東坊、夕刻、色天、  
し、美と集かりし

二十七日

時、然念の心此去、存今朝、花川竹早町、  
到り、市河をおす、重祿の祝儀、多んとも、  
方疎、進打、色き、其居を、始、初め也、未  
之、人長男、に、命す、二十年、幼、し、を、一、時  
に、交、く、物、に、出、才、也、具、心、事、年、六、十、六、之

八の子、女、あり、去、り、理、一、と、云、ふ、五、十、年、事、功、  
十一、時、内、あ、る、文、を、日、石、倉、氏、に、送、ひ、大、隈  
彦、内、比、治、名、を、之、に、寄、附、主、を、午、内、甲  
受、く、物、送、り、向、の、心、目、也、に、致、し、打  
口、出、店、に、日、本、永、代、名、を、繕、ひ、希、也、後  
此、を、今、も、し、近、刊、二、行、記、本、を、多、く、中  
新、本、集、洲、鑑、類、函、攻、七、五、年、事、に、寄、り、分  
津、日、八、一、事、久、保、盛、山、の、生、強、其、崇、拜、後、集  
成、を、示、す、こ、ん、を、出、致、と、云、に、禁、止、と、多、う、い、ふ  
也、也、攻、の、五、段、と、云、す、事、也、

二十八日



白井新右衛門様より、新著社令極政論を賜  
り来り、極中極果を来たり、白出海  
つこしく、同去と道る、一二を得、後書  
尖、三四より、河原に、あつて、早大出  
版、山刊二種、御本、多岐、二  
玉、今、理、致、

三日

雨村に、去、入、馬、行、并、能、所、  
所、即、身、二、百、上、下、田、を、讓、り、後、主、也、物、代  
と、差、り、河、定、こ、も、井、上、辰、中、河、口、五  
峯、一、も、東、也、又、関、を、り、り、五、也、相、年、の

か、雨、ぬ、す、り、ぬ、ぬ、を、湯、午、後、出、也、  
こ、同、去、と、道、り、瑞、瑞、各、こ、二、十、田、拂、入、也、  
お、を、改、し、て、之、を、今、も、東、京、野、前、の、じ、り、  
づ、と、道、る、を、八、河、こ、上、り、中、山、の、大、人、其、後、  
其、能、を、一、應、説、す、原、田、康、大、人、の、計、に、  
す、之、刻、も、是、も、大、使、方、の、変、す、  
心、

書

明、文、の、出、版、の、ハ、ス、カ、ル、盛、志、保、他、本、十  
時、森、岡、と、是、こ、自、動、車、と、能、を、大、浪、若  
を、古、山、に、道、る、文、的、場、合、に、土、地、場、又、養、

予物不運 築一舟也 吟言 詠し 由路 神の  
二回 予一二の 石を 詠ひ 凡月 中 詠し  
うふ 井 未 立 人 来 ぬ 栗田 興 切  
押 言 也 と 歎 言 ず 難 知 と 言 へ ば 耶 と  
移 言 ず 古 柳 鳥 垣 と 出 杖 と 言 へ ば 柳 又  
今 塩 沼 松 木 吟 言 者 技 の 由 言 と 詠 言  
去 言 禁 絶 物 才 六 冊 録 言 言 言

吾。

時 政 氏 守 和 田 藤 吉 今 井 貫 一 修 言 言 言 言  
坂 上 弘 長 長 女 詠 言 言 言 言 言 言 言 言 言  
内 行 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言  
ち 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言  
賜 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言  
院 兼 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言  
今 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言  
言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言  
詠 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言  
東 洋 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言  
一 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言

六日

時 氏 東 脚 前 田 穂 田 代 英 一 知 言 言 言 言  
古 池 兼 三 兼 通 時 俊 文 言 言 言 言 言 言 言 言





井上辰丸の事

九日

雨朝山洗資料と若干冊送着中二散見  
之其の教十枚切り板一冊に贈り付、在越海  
邊迄も送る事、越海丸尾寸珍を以て  
個注文之受、漸々出来迄運使に申し  
付、各報教あり此價十由目也、故上弘新  
甘了活紙を施す、禁物物を贈す、山  
田齋蔵三筒一山陽紙三台云々、山四所  
心身功、今律八二、身功午後迄法し、云  
々、觀心寺の宮三、教を寸本二冊贈す、

古記集三、身功、由略、之、修教、之、出書、四  
五、を、托す、本、林、陽、下、事、午後、十六、江、抄、西  
由也、之、印刷、今、祀、未、成、行、法、有、身、功、法、  
関、大、中、一、身、上、身、功、去、去、時、也、  
紅葉、錦、之、を、り、校、規、問、題、二、月、内、議  
之、を、寸、珍、分、會、者、有、由、中、之、修、修、早  
速、返、本、回、以、由、糖、田、兼、之、也、也、山、の、維、坊、也、  
之、校、規、と、味、日、附、属、法、を、め、分、之、寸、珍、也、  
寸、珍、の、字、珍、法、十一、時、由、也、越、海、丸、  
製、寸、珍、車、若、十、個、別、を、寸、

十日

頃、高須橋河舟功有、大隈友傳記中三  
如、三属する材料（改正並創立十四年  
掛冠在桑本、り、子、秋、三、條、約、臨、西、本、下  
約、時、百、三、滿、り、余、の、記、臨、あ、る、こ、と、を、後  
リ、十、三、時、刻、り、や、む、井、上、辰、九、中、と、東、色  
既、西、瓦、尾、の、折、代、十、五、日、郵、送、午、後、山、陽  
復、多、の、材、料、油、の、入、時、を、考、へ、り、森、文、七、の  
計、利、の、十、四、日、校、親、維、持、會、の、通、牒、利、の  
四、時、の、借、り、元、光、と、付、心、淺、者、に、利、の、金、の  
に、領、し、九、之、三、三、誰、州、府、と、も、略、す

十一日

日記

是、天、校、友、石、川、勝、治、と、上、原、康、也、三、本、武、志、の  
以、り、出、栗、中、の、下、村、西、左、右、り、り、電、報、利、の、の  
夕、上、原、康、也、の、こ、の、下、村、勝、治、に、會、合、を、約  
す、不、林、文、七、死、去、り、梅、林、と、是、年、三、  
輪、元、道、身、の、死、去、り、日、断、り、松、本、直、房  
信、城、一、内、馬、三、竹、元、と、治、多、の、老、者、也、也、り、  
者、業、す、す、心、き、如、人、也、望、守、表、去、治、の、如、美  
推、也、也、海、邊、を、嘉、也、如、外、也、井、上、辰、九、中  
も、し、十、年、也、也、多、早、大、團、多、波、の、紀、元、也、  
に、臨、也、り、竹、武、也、に、團、也、波、廿、五、状、と、も、  
を、奉、け、取、也、也、心、也、也、不、須、事、本、書、中、也、  
市、堤、原、也、也、り、多、早、大、團、也、波、

上三粒を紀念石を催す、余臨むる處上井立  
峽を渡す、狹き大なる

十二日

雨、市中のお仙花皆ひらく、古池書畫しを  
齋らし来た、開き乗し山陽の急き油心  
を穿し、よのを満す、數の年去るなり  
昂の言、美崎家の年入を穿し、雨  
戸のわみ、ソを修理す、五時京都下村に  
大印と中央停車場のステーションへ入  
ここの上を、三不三印、同宿る、晩、おらと共  
まゝして大丸の内子を流す、関太の、ももも身

上の件、友、ある、謝電と、客の来る、所得税  
注税も、陸、到る

十三日

頃、今、昨、八一の、帰、と、返、し、其の、印、場、の、下、を、苗、こ  
返、ま、も、心、を、來、脚、分、給、る、も、月、は、十、時、を、  
中、の、印、場、中、と、共、に、大、隈、別、館、に、到、り、皆、其  
股、の、所、を、く、き、便、不、着、の、云、向、を、換、ま、す、  
午、の、時、に、後、茶、後、大、隈、四、郎、を、四、月、一、日、開  
放、内、外、の、用、に、供、す、る、に、日、其、手、續、其、他、に  
合、し、長、め、分、に、渡、る、今、概、を、い、く、  
山、陽、の、急、成、り、し、山、陽、の、急、成、り、し、山、陽、の、急、成、り、し、  
山、陽、の、急、成、り、し、山、陽、の、急、成、り、し、山、陽、の、急、成、り、し、  
山、陽、の、急、成、り、し、山、陽、の、急、成、り、し、山、陽、の、急、成、り、し、

山田英夫大中七郎結婚ニ付林ノ車  
合納ニ付モ持取ノ身事ハ成利ニ関テ  
〜〜〜五泉可夫竹谷大郎〜  
切取ル旨一筋勤王書蹟と眼合し  
来り能合地一〜〜拍と銘〜

十四日

晴本林山田ニ付車次坊内迄是枝用ノ  
為以取取海〜向月と銘身次坊内迄  
ま山田教威向山者三〜商賣者坊内  
と候正午後二時登校維持身合候  
九日以來小巻及身〜附託〜  
雨側ノ往迄を短ク修正案ノ如ク  
持身居〜誠ニ上ノ可決す、  
身次坊山陽大親と候也、

十五日

雨後晴、中代亮在り候、十時と大隈  
邸ニ到り出向ノ字及所及〜  
圓ニ引籠き候夫、午後三時漸々  
後亮と相手、山陽海ニ時を稱し  
身次坊を〜  
〜〜若由身次坊理論を定り〜



今の講演会を報知し、新築橋上二階大講堂  
講者志賀、森村西人、藤原西人、講義後  
映畫を聴衆に示す大隈侯の一日「無邊  
電信」「國際聯盟」「鷲」オウ、三十一日  
杉森杉山外堀舎員と報士の松本、松  
名と其の之を、市島九中より来た

十九日

雨、仁平久互ある昆西に終末す、田村来り文  
の多院に控り、股部文の印を、土地購入不  
切手と交付す、大隈家の系後志傳記編  
纂の所を握り、漸や、叔父理を告げし

巻頭言を中田の授筆を報し、又、あ時  
余の日記を交付、腰書せし、印増す、其一  
印者、賜美財す、功、文、唯、記  
このとき、東、倉井一高、高利、出、状、を、  
す、午後、雑誌を、す、来、月、五、日、を、ト、し、例  
年、も、り、の、印、副、分、此、の、得、意、を、報、福、し  
親、割、分、を、倍、す、に、決、す、四、時、分、出、社、田、に  
二、三、回、去、を、踏、ひ、紅、葉、後、に、列、り、高、田  
前、山、後、(、高、)と、能、山、深、又、山、也

二十日

雨、市島九中、山、聖、寺、を、古、古、山、林、堂、三、身、流





夫改上功有する例に注射を云々、海内を  
巡ると托きん学独りも遠馳村在の額仕三  
方を在津表皇の托きん竹谷新大の  
再び玉志安集を郵送す、田代英一天  
馬居昇三其の、大島石を、新著教育  
の原理及方安を好む、午後大隈邸と文  
の協合奉後分をつまぐ、神宮若破印文  
四印中打進午共、此の、外四を親  
し、之よりなるもの、其分、十、六時、開會  
集の如き

廿三日

時自公遠遊お在、額面の表装を在津  
に托す、石川勝流、と、其分、仁平、久直、と、増  
田、と、其分、十時、大隈、若、依、記、編、纂、が、不、到  
り、来、月、初、旬、委、員、後、分、を、集、く、言、誌  
般の准備、身打合を為す、午後、而、英、文、  
と、目、石、分、代、の、訪、の、で、蒸、す、不、在、中、京、都  
橋、を、本、館、に、信、を、来、訪、の、試、を、贈、る、  
坪、内、の、道、の、家、庭、用、次、重、割、才、二、集  
出、版、能、本、田、代、英、一、の、出、版、を、英、文、の、  
新、聞、標、大、方、の、子、息、入、る、の、件、に、来、訪、

廿四。

町、廣井、東、古池、素三、と、男、入、出、書、  
代、と、七、石、用、施、悔、と、交、可、可、此、價、七、十、五、四、  
也、関、大、中、一、と、事、出、十、時、出、版、部、に、於、  
て、増、田、の、本、(嘉、永、四、年)と、人、多、く、大、隈、が、係、  
記、下、年、間、分、科、と、事、希、に、傳、記、の、附、録、  
と、し、七、考、同、集、と、附、く、へ、き、件、有、場、議、  
決、定、り、月、日、及、び、五、年、身、分、故、四、代、身、分、ら、  
才、七、冊、録、成、昂、多、大、改、と、却、く、大、口、為、三、  
印、と、し、傳、記、の、後、の、元、身、分、を、為、す、日、刻、度、更、に、  
也、此、を、言、く、直、に、卷、ふ、り、代、美、一、と、事、身、分、也、  
皇、三、十、日、田、原、と、五、年、身、分、に、於、り、行、

二十五日 日

町、平山、を、利、助、其、の、身、分、の、本、教、交、付、施、  
如、も、事、也、出、版、部、に、到、り、二、種、記、本、を、  
受、く、十、一、時、分、に、交、を、付、完、了、出、游、淡、也、  
の、金、四、に、致、し、帝、國、館、の、映、畫、を、見、亦、米、  
阪、の、田、原、に、洋、館、を、喫、し、て、之、を、二、冊、是、の、  
原、平、と、し、身、分、間、

二十七日

町、古、池、素、三、に、二、書、代、三、十、日、田、原、に、り、東、部、  
石、手、能、以、代、也、早、大、身、分、生、活、後、身、分、  
故、石、井、に、あ、り、一、好、身、分、清、早、大、く、入、り、身、

現成石井安方より、田代の動物を贈る。素  
腸の多き者、身来法。又市崎の印、十午の午  
後大隈、若鳥、記編、身要録、記要、と  
を也、き多、中村、若雄、と、素業生、田中  
る、金、花、し、成、器、行、状、が、調、査、に、依、り、状、を  
別、る、す、場、を、示、し、依、り、也、似、後、加、賀、子、三  
関、大、ら、り、と、山、状、を、見、る、す、今、初、山、田、英、大、印  
長子、俊、又、若、婦、の、投、夜、に、相、之、東、要、令、録  
に、列、り、九、時、帰、宅、

廿七日

山田信正、素腸、行、村、身、来、法、道、公、の、田

近、印、細、地、質、貸、料、減、款、と、件、を、取、り、  
石川勝治、倉、辻、清、俊、身、来、法、旋、舞、を、著、す、色  
内の、紅、白、の、梅、満、開、真、崎、村、等、り、と、備、向、五  
七、時、り、来、る、地、内、道、是、と、性、態、に、関、す、  
徳、島、丹、野、と、る、中、田、海、吾、令、勤、身、来、る、  
後、散、策、神、田、の、色、系、に、関、す、と、徳、島、得、る、不  
あ、し、松、重、を、即、令、召、す、十、日、神、湯、崎、天  
津、境、内、の、梅、を、見、四、谷、と、同、り、三、河、内、  
し、と、り、る、市、崎、九、印、し、と、り、る、  
夜、を、矢、す、早、稲、田、中、と、り、る、  
限、令、録、を、相、録、也、

廿八

明、凡、昂、大、改、を、述、く、其、給、桂、河、中、山、田、致、  
城、之、出、状、と、あ、ら、す、堀、子、を、一、つ、と、し、其、中、  
田、海、軍、並、木、元、方、ら、し、来、功、田、代、兵、一、来、る、大、  
隈、侯、之、出、状、を、お、た、せ、を、い、左、丸、西、城、由、も、  
送、之、出、状、を、あ、ら、す、午、後、好、向、之、乘、し、出、候、  
必、く、同、付、二、十、年、報、為、指、戸、を、記、し、二、坊、多、  
く、没、計、を、い、ひ、結、果、は、是、之、形、勢、之、如、し、  
考、し、能、道、を、抱、正、殊、に、漢、集、に、隨、道、の、  
車、し、も、あ、ら、す、の、今、と、其、其、身、并、を、撲、  
ち、名、共、亡、し、柳、島、の、あ、ら、す、大、外、の、事、も、今、  
修、保、寸、取、存、を、出、て、物、を、移、心、四、五、

河、を、記、す、河、を、記、す、河、を、記、す、河、を、記、す、  
早、大、の、出、状、を、あ、ら、す、

廿九

明、古、記、業、三、十、年、之、甘、南、漢、中、切、傷、を、婚、の、一、冊、  
是、一、つ、下、物、と、あ、ら、す、林、務、務、柳、才、の、冊、を、移、し、始、り、早、  
後、五、年、来、功、を、才、神、集、十、冊、後、付、五、山、年、大、  
隈、侯、を、記、す、詩、六、首、を、示、す、四、時、迄、流、  
し、終、に、お、推、し、る、築、地、の、醉、仙、亭、了、支、那、  
料、理、に、利、り、酒、倉、一、七、之、也、

三十











湯尾市をえり、山田は厄難波理一に深澤  
改仕有欲梅屋中由物吾会出秀俊身流  
の田の政文七事う梅す、午後一時とて大隈  
会館に到り大隈若侍記帳の若人等が  
向安員と今年一編を交合滞り互後滞  
一年間の経過を余らと詳細に報告し  
執事するお馬事須をしとるお好の或る  
部令を讀ます、の、免集の資料等  
を閲覧し、終り来合久米大隈武田  
六中實浦高田増保一木等十四五  
名四時合を閉り、宗家の祖母死云の

報を受え、山田教成より出ぬ上京  
を常報し来り

町宗家徳厚、元あるより不電をい  
す、木崎好名に二箇を寄す、桐耳三  
枚不持山陽の箇の台を漢又ハ作  
お十数る、漢了、増分も長一、之状  
をいす、山田教成身着梅の合の家  
に、田め山陽の台と中録をしめ、とす  
拙筆も、面熱はくを、道邊、を礼を  
来り、石山出原身功、田代英一、身心午



明協会の毒師堀江等来揚古池和  
亭下雲松園を齎らし来ふ半日山田殿  
城山陽通事と電報局をしの午後徳  
教院元と付を電事しとを漢編の  
梅を元舞所九年次上の梅と見終  
神田の東洋キ子マの映画を元  
五時より高科大子の園出館に於て四  
七出店あり、多くの時を費し三十年  
紀念大会に準備し件、三十基基を  
並ぶ集りしを解散し、山田殿：晩六  
と興す十一時漸やくりり、均電報

の梅大りしと物を贈り来り、関如来、其

十一日

明朝来山陽通事と口授筆を録せしむ  
中田通吾、外務省、移りて互き字條  
物改正一件と、或の字、或別を述し、或と  
持来り、倉辻、或後友康、或康子業の件、  
付、或午後、又山陽通事との口授筆、  
録、或教時間、を費し、或度、或徳を感して、  
去、或在、或保、或中、或有、或信、或義、或彦、或三、或物、或を、或贈、或る、或也  
夜東京會館に早大教授蒲河、或北、或信  
今、或有、或信、或席、或有、或今、或後、或別、或命、或に、或於、或て、或為、或因



在東京の真治桂坊より、中田病者、  
物より来り、其須極度より、方改滿鮮と題し、  
来り、余は、越後、其須、午後、烈風、大隈、  
徳編、不、其、疾、の、言、去、一、枚、塔、を、来、り、  
の、以、早、く、所、を、物、を、入、り、即、油、を、

十四日 書

明早大と二三の通牒到り、真治桂坊より、  
其物と題し、高島義一自家醸造酒、  
其、山、武、夫、早、大、入、り、杉、井、郡、流、の、  
状、其、身、保、次、人、油、印、一、本、森、田、中、田、合、  
其、身、保、次、人、油、印、一、本、森、田、中、田、合、

一、越、後、資、格、を、心、り、其、坊、に、傳、入、り、土、地、  
返、還、在、存、一、切、の、出、給、油、印、を、十、七、日、午、前、  
特、建、築、委、員、会、同、日、午、前、大、隈、信、記、林、松、  
二十一日大隈、其、進、陣、分、二十三日、土、の、  
軒、校、友、大、隈、を、心、り、其、坊、に、傳、入、り、土、地、  
大、隈、の、出、給、を、心、り、其、坊、に、傳、入、り、土、地、  
に、利、り、余、を、心、り、其、坊、に、傳、入、り、土、地、  
と、し、電、報、に、在、井、安、大、郎、と、し、其、書、

十五日 日

明、今、初、元、を、心、り、其、坊、に、傳、入、り、土、地、  
其、物、を、心、り、其、坊、に、傳、入、り、土、地、



十七日

町下林貞唯市井脇更村其為十時大隈會  
館に到り早大の建築委員等台に臨み大隈會  
館に設計を協議し余もこの危國に後備  
其他三つを提議何れも決定午後又同じ會  
場にて武中實清の出席をせしむる大  
隈関係記の材料に就き代るく法政を  
沙汰の的に到り此は市井中其婿の娘  
共三人來りたるに聞きたるに其婿の母  
おし二函贈き、真宗父子を頼むる由り  
先兄と云ふ、初未雨あり

十八日

西崎丸、琳瑯閣を在る古枕五冊贈ひ本坊  
本堂入に付下夕抄に出す、内山有ニ來り  
石油時報の送見余の地草子數則を奉  
録せしむ、出版部より城内の近著、火を  
教育と演劇を配本午後理髮友神内の  
玉坊に回出を漁り先獨逸人シヨルツの試  
験に及才を後同人を海とくニアノを学  
ぶことあり

十九日

雨、古池素三來り、出書代し雨あり

田老の、此紙詩話二部此代筆十四卷  
也代筆の由、お後、高須梅溪、東坊  
大隈、彦博記の材料を、授けし、上の  
、利り、お折のく、て附也、し、指を、利り、年  
よ、山を、共、う、し、て、あ、る、紙、白、本、百、巻、酒、大  
り、事、も、公、過、年、の、後、身、功、成、後、旋、好、好、を、  
可、坂、本、嘉、次、馬、も、も、ま、ま、林、音、江、美、路、松  
こ、る、中、山、功、を、お、統、人、に、継、承、せ、し、こ、る、ま、ま、松  
お、統、の、り、え、也

二十〇

高、錦、光、山、良、と、助、来、河、坂、上、弘、新、事、の、例、の

注射を、言、く、田、中、唯、一、の、遺、族、も、故、人、の、祀  
念、碑、を、立、せ、る、大、隈、英、四、郎、庭、園、を  
公、衆、に、観、覧、せ、し、め、る、事、も、後、工、風、を、要  
する、件、り、和、案、十、條、を、稿、し、大、隈、合、資、  
會、事、者、に、交、付、す、内、山、省、三、と、未、之、十  
時、大、隈、合、資、會、に、利、り、陳、列、の、書、畫、を、観  
る、事、も、現、代、世、家、の、紀、念、も、且、未、と、禁、即  
の、り、見、物、に、必、り、な、り、ま、あ、也、時、價、総、体、五、萬、  
六、千、圓、を、爲、す、千、圓、引、去、三、萬、五、千、圓、利、益、に  
餘、り、也、午、後、光、を、付、合、出、遊、淡、香、も、り、し  
乘、船、お、位、に、利、り、物、販、電、車、一、と、二、  
車、に、出、ひ、更、ら、ぬ、田、谷、三、圓、ハ、リ、三、河、原、に







や絶望。大隈令級：高田橋(河田中)  
令中七、葬儀儀：對多子學校の進級  
を協定す。午後再び別邸に到る。三時  
に福田博士来診の結果、呼吸の弱  
少：重症然の予と表す。ことごとく  
今も体温三六・七脈搏一一四、呼吸二四  
喜涙解ゆるも絶体：由念懸る  
嗜眠状態を呈す。夕刻一先帰宅。高橋  
波一(子)と、鉦子に托ける故友也。車  
便進俾令の挨拶を報じ、未だ休取  
即一博士と、耳問来月言、江高級に托  
る。鉦子と、川一日「極幸」を返す来る。

夜に入り大隈別邸を元高の、夜十一時帰宅  
夜来雨

二十五日

雨、田村森ニウチあつた本の文の出版続行の旨  
を私に預け申す。土所其を、畑山香太らのお  
も利る。出村水谷友吉柳巷花柏松おお  
他の二とせ、橋入代を拂返、来陽其訪  
十時大隈お邸に到る。未亡人危篤状態  
依然如く、行村お邸へと訪る。不承の  
早も、午後、河田忠次と未亡人此去後の  
家出(遊)を相談す。河内(遊)を



後免とて其の池の死一死秀海は  
すへき玉状とて其の不在中井村に其  
の遺文二部とて其の文の場とて能  
と受く。

二十六

小雨高橋敷彦其能一二の玉状に其の  
岸至を扱き國古飯場合とて其の  
其難保とて其の十時大隈別邸に到る  
夜四時二時初に其の法杖を施し其の  
其互朝とて其の持統を扱いとて其の  
は呼あち、十一時四十分以迄終と云  
其相え、其の高橋敷彦とて其の

を其の午後一時に其の死とて其の表を其の  
其の場敷の其の二日生お式を大隈合其  
其の四時迄に其の行あち、其の其の細  
其の略とて其の其の其の其の其の其の  
其の四合とて其の其の其の其の其の  
其の内交渉を其の其の其の其の其の  
其の其の其の其の其の其の其の其の  
五分更須

二十九

雨、十時大隈別邸に到る、其の儀終其の  
内告別式とて其の其の其の其の其の其の



接す、倉辻秀俊母あり物を贈る。午後  
降雨、新候二宮とし、三時半大隈別邸に到  
り、分室内有るを祭資料、米、幣帛を  
焼く、元勳の妻に對し特別の思は、出の  
と云ふ、初め入る後雨靈祭を行ふ、九時始  
迄

二日

晴、ホル、廿六、吹南三の波多別邸、香波  
寛永湯、十時より大隈別邸に到り、又香  
波を吊り、接待と旅談、一時を移す、  
木高位御前と報す、初めは友と云ふ

寄合をこのとき、初来、午前榎前祭あり、  
臨場、分社の要件につき、久江と改す

三日

雨、初来、旋回をせしむ、早大より、校視附  
属法衣、お四日、香波寛永、お杖をぬき、  
岸並来湯、先月分報、御國を儲場、  
初り、主務湯より十時半、又大隈別邸に到り、  
多宮后階下より、持こひ、欠る、御供物を  
下賜、若柳の梨本、菓子、御使あり、又刺也  
谷者、真男、外四五の客と改し、時を移す、  
夕刻、雨曇り、云し、六時の御書、文三、身こ

此初来の雨未ぬきなり。八時大隈舎館に至  
 る。大隈支の権を乞ふ列部を以て既  
 令館の本は表に移しあり。式場花を  
 以てし壇あり。九時を告お祭を行  
 ひ早大の弔文と讀みて後、北向川  
 梨木の代拜あり。親族並に親近者  
 柳を献し十時を一般之人を入る。十二  
 時来令者二千八十二時式を了る。幸  
 雨晴。一時出権余等十人権側。隨  
 ひ徒歩薄玉寺に到る。校門を過し寺  
 庭を過し塙を築く。塙を以て時刻より

権を築穴におろす。後予與深六時を  
 畢り権前祭を行ふ。是迄散す。今初  
 校に親交施し内お祭を乞ふ。為り  
 あり。塙の代本(三)田中(施)板(泥  
 田)と築土の梅目。今(し)協(池)中(高  
 田)の(乘)ト(紅)祭の言を乞ふ。余  
 之れを乞ふ。いと多の施を乞ふ。も疎あり  
 田漸やく是う謝する。おある。と。十二時  
 由所。橋井(河)中(田)を(板)場(合)す。と。是  
 其(出)場(之)塙(場)合(す)：新(入)入(り)予  
 後(多)深(江)順(用)力(東)功(カールスル)なる  
 塙(秀)夫(の)清(息)なり。



明高橋義彦より来出、廣井一其法  
者及寛文画指扇面が二押合と云  
ふ即ち色一七五の、岸並圓也政協合並若  
筆の件は来出、午後二時早大恩賜館に  
於て校規附屬法(維新後各規則法體及  
今も規則校指合規則)を御覽す、右校  
規の實施規則と本日と定む、五時三〇  
校を去り、麻布南蔵文庫不在園也政  
協合の予稿不に到り、徳川侯の身体を侍  
て其身を著集の委乃多を子らま(余よ  
り種々校規二三重要のものを決し、時

この中宅行打と深文二男暴死と報し  
未

明、帝大史料の陳列を見、向道館のものを  
と珍心凡月本と銘せしものあり、その利  
る、石川結法と物と銘する又京都府  
石本と銘する、推来原の句をいれ、中  
心館法と銘するものあり、由代是本  
に考れと是より、新報を著し時を移す、  
熊谷左三海也を著す、地獄の法を大  
病園を銘する、又、田中穂積未流古の  
万石校の内多を記して考る、山田心平

支那の物着を報す

七〇

雨後晴、九時正大隈元侯夫人十〇祭を  
墓前に行ふ身巻列、十時増内(道)邊を  
訪ひ午後二時迄号換し要件を説き  
田代亮(氏)より身巻を贈る事としりし  
移す、雨乾後、佐むと先を付て散葉集始生  
に物と贈ふに津歩路、日原居に留りし之を  
府税市税十八日(多)納付満、田代  
協分より通帳、大隈家より恩賜の菓子  
を贈らる

八〇

雨、朝来、田代城分幕屋方法三日三葉時と  
移す、岸至来訪、日誌版前陳し、身巻集二回  
を為す十時迄日誌印刷会社の重役會に候  
也、初業始りしと十五年越十八葉田借入  
し、多決定、文の出版は八分の能而を  
交く、山田清也(氏)訪、田村宗二(氏)山陽  
書簡の贈言を托す、山田俊夫(氏)其の  
先人の草子に成る土紙稿一編を贈らる、雨寒  
旅舟を草子(氏)陽に到る

九〇



尚一七三ノ撰勝本ニ印證証的を七と云坂  
上山卷ノミハ傍儀ノ返答ニモ物を賜ふ未  
只午後早大の催物有るニ臨む此の所  
校親ニ基き大隈侯を名義流者ニ推し  
理事一名増員有るを理する一増員許  
任其後任りしと有るを流者ニ奉く二二  
例の山田英太郎ノ一ノ増員を任動中  
七十四有るを不可し又有るを今直に  
流者ニ推すも誤解を召く事有るを  
主然し改會編一波瀾と捲く已云を得  
す余先の此流有るを記しあるの已  
云を得る所以を云ふ二の流の状改の

十二日

行該りたる論道山田ニ對する友  
論起り流有る編一改を以て有るを  
流者と云ふ事一決して散會す和谷  
リ和漢蘭新流を賜ふ  
期其雷雨内山有るを云長池素三  
リ常山領村の書山候を梅小價廿五山也  
是夕夜五部古池ニ交付十時と文  
の編合の編輯令に臨む午後和由菊  
古事流自動事と例を有る由長次  
郎一糸一山石崎家の桐崎を訪ひし  
七柳守の養本を二つと交済する事

リ、石軍つと高料大なる國也、跋に到り  
協合、葉々、至の未世、及、此に、信、名、夜、こ、み、り  
物書、中、四、均、を、其、功、

十三日

日曜

此、今、朝、大、浪、屋、夫、人、の、分、靈、を、依、り、移、す  
身、九、時、三、十、八、分、停、在、此、に、見、え、さ、る、物、路、浪  
田、の、松、吉、也、也、之、國、也、を、將、い、二、十、六、日、交、付、  
早、福、田、の、子、の、徒、也、中、途、に、騷、擾、大、衆  
の、内、更、傷、す、る、者、百、も、あ、る、子、も、兵、式、操、練  
を、合、て、一、國、の、生、を、動、し、誤、解、を  
生、し、る、結果、も、ん、と、も、何、れ、の、北、日、後、に、也、

其、振、中、の、更、先、に、乘、し、援、就、を、煽、動、克、と  
す、七、の、如、く、も、と、輕、に、看、こ、す、可、ら、ざ、る、以、  
以、り、心、里、の、者、生、石、井、其、也、其、功、中、也、親、流、  
一、香、を、お、く、る、午、後、又、を、誓、く、を、出、給、  
ち、子、の、位、に、也、き、旅、途、を、越、し、淺、草、の、淺、  
公、分、店、改、築、成、り、入、り、也、回、を、始、い、  
府、に、其、時、を、始、入、り、也、谷、に、田、の、り、河、原、  
に、飯、も、と、く、る、新、徳、寺、の、撰、抄、状、列、る、

十四日

此、朝、代、是、分、其、功、難、保、を、事、し、し、時  
を、移、す、其、脚、赤、に、岸、を、其、功、出、給、す

の江都博夫とて年乙午後光を折るるを  
念の在、念は二と訪ふ、二の語法して去  
るゆ途、中、午後三時、橋井清也、中  
訪、園を彼、場、有、の、事、集、方、針、一、つ、き、去  
時、有、訪、す、早、中、北、多、る、(十、二、日)迄、怪、別  
、夜、来、雨、あり

十一号。

雨、久、明、有、三、四、月、廿、一、日、幸、港、有、日、廿、四、日、シ、カ  
工、費、消、息、到、る、太、田、園、と、彼、場、合、事、あり、と、先  
日、の、比、念、心、式、上、余、の、切、否、を、志、彰、す、事、有  
臨、席、を、訪、ふ、方、の、正、式、案、内、状、到、る、廿、四、日

三、博、子、と、在、一、日、可、活、郵、船、合、社、と、本、月  
二十、日、株、主、総、会、の、通、牒、利、息、は、又、江、外、一、公、社  
の、借、入、金、利、息、を、有、来、談、田、代、光、介、と、  
て、乙、午、後、散、策、村、に、乙、午、に、珍、本、二、種  
菊、経、中、外、銭、史、を、贈、ふ、漢、共、六、十、五、日  
也、後、乃、伊、藤、利、生、政、部、の、要、件、を、帯、り  
来、候、又、訪、ふ、森、次、徹、信、合、会、委、員、会、の、件  
、乙、午、来、訪

十二号

曇、天、二、三、日、元、日、を、見、す、高、田、大、各、の、總、長  
就、任、の、結、果、出、版、部、長、(元、澤、後)辭、任、す

多角生：調印を為す。志心々々。部長を謝  
き。余主幹として部長の職を行ふ。ことと云  
ひし其の旨をお後後として多角生上従来  
の如く干渉する事初論。十一時。同日  
印刷部此に到り。臨時重役を以て  
勅業部。入る。是に件者再議す  
借入年限：行末を生じ。為す也。続高十  
ヶ年間として借入。いふ。決す。十五年の  
豫定ありしを變じ。山内後天に改定  
清免の借代。二十日押付。午後降雨。

十七日

和氣遠く山回教儀。身出。九時出版部  
に往。打込。江と合。て後。負。増。体。の。件。を  
協。議。す。引。つ。き。大。隈。廣。徳。比。留。差。分  
合。二。端。あり。午。時。内。あり。又。寛。と。果。本。印  
。合。事。了。し。午。時。を。過。り。て。決。然。：。時。を  
移。す。帰。宅。後。内。あり。し。信。囑。の。物。價  
調。節。に。関。する。建。議。書。を。書。き。て。互  
。二。部。送。り。各。府。政。主。回。出。張。夫。を。日。比。谷  
の。内。々。事。に。合。し。余。回。出。張。協。会。を  
代。表。し。七。基。至。基。力。集。り。し。事。を。見。表  
し。且。つ。其。府。政。主。答。答。集。を。囑。托。す。徳  
川。總。裁。が。二十。日。教。示。出。度。

明、石井為又中妻の死云、白香典ををす、小  
 田の多子河津、方就をぬかす、十時を南  
 葵文庫：利の、音出をを人合場として  
 園を銀城屋の臨時読屋をうまゝ、七十  
 数名来居、叩号高志彰名各人合場推  
 薦のりり決し、余其を主とる者集、いふ  
 を設けず、規則は一個本を改訂し、他  
 二二三のりりを決し、山午に到り、此日  
 には南葵文庫の閲覧室に江口の  
 代の説教を陳列す、一晩より、荒子  
 の幹部員と其を主とる者集、此件を協  
 議し、又刻三條亭に到り、有志者  
 合をうまゝ、余亦席上其を主とる者集  
 就て一場の演説をあり

明、中浦打も、江戸新橋本印鑑終のりり  
 其の終り、先づ、岸を協合し、件有及  
 項、右池素三、志高を招く、来る、十時よ  
 リ南葵文庫、以、於ける、園を、改訂  
 三十年紀念会、此、式、痛、に、於、て  
 余、印、鑑、を、表、彰、せ、り、又、初、め、若、者、と  
 此、二、花、先、生、合、員、と、推、せ、居、り、先、に、合





雨、伊在輔利出版部の件、中田尚吾傳記の件、有林院、阪上弘花、注射を施す、雨忘、旅病を著し、一時を病し、午後、到る、以人、河原真光、方り、し、其、月、西、筒、集、二、冊、を、寄、七、来、る、四、時、倦、ち、て、出、游、回、谷、に、物、を、贈、ひ、三、河、尾、に、飲、す、高、田、も、も、電、話、を、三、夜、野、接、仕、業、の、報、を、得、夜、未、雨、甚、し

廿二。

雨、高須、極、淡、に、囀、し、と、云、う、の、為、大、隈、今、頃、見、物、の、集、の、稿、を、閲、し、且、つ、校、訂、す、山、陽、送、り、の、原、稿、を、心、り、二、十、枚、を、成

二、山田教域、に、寄、り、し、め、る、山、陽、送、り、多、稿、二、百、七、十、枚、紙、後、を、し、刊、行、出、版、の、より、集、り、敷、の、お、を、贈、り、来、る、校、外、生、大、倉、心、り、多、報、を、得、也、又、刊、行、の、旨、平、来、る

会三。

雨、赤、崎、今、頃、有、林、院、社、打、お、入、江、村、の、出、版、部、に、の、を、由、儀、す、夕、夕、フ、ラ、ン、ク、社、長、橋、本、喜、進、と、し、の、名、に、集、地、河、南、尾、折、飲、と、あ、る、用、紙、に、の、名、に、お、入、り、し、塩、田、某、目、的、の、集、子、法、治、等、を、お、代、二、十、日、郵、送、す、午、後、旅、病、を、著、す、増

子を見て印中各々の決算書を示す加判し  
及す。山陽方面の原稿二十枚書きし  
終る。山陽方面の録原稿山田縣城の草  
紙とも合ひ七七一十三百頁とす。元巻  
集め材料と略々書き終る。山の致  
概へ出状をせらる。橋井氏中へ書状を  
共々寄す。井上君徳川邸へ行くことを  
送り書状を

廿四日

陰田村合務より書状。送る。森木君  
才助。十時出版部と判り大隈侯に

託編纂会令に依り、午後二時帰宅  
紙を草す。五時神田の二三の店と坊を  
築地の河内屋と判り日本タテブライター  
会社の橋本君先と招きあを判り  
款金を山川出す。

二十五日

雨時新しし今雨こうけ山陽方面  
原稿四十枚書き出末、冊書き原稿  
五巻外二三家へ出状をせらる。午後  
又原稿十枚書き出末、送る。元巻  
船田の如と判り、松久君の如く代り

田九十義拂馬別に法帳を懸け浅草に  
浅草庵を移して古物代前四日  
と令二日拂内給仕と四つり天全三  
し七のこゝ

二十六日

昨、早起雜録を兼て、昆田若枝の給揚  
子件より身取、本林師四村令務に  
取、由田路桂秀より、重なる三十五日  
代交付、早後文の協合、茶飯令を大  
令給入ひらく、溝濱名瀬川、美作  
並に内務省都市計畫、山田侍

爰、身合、七十九日、五時、麻布の徳川  
邸に到り、田中給揚令入と、明  
徳を二文付、深更迄、活法十二の物也

二十七日

雨、五月四日、華府、長崎、三の端、出立、木  
桂玄文の訃利、象兼、詩画王、鞠待録、共  
寸珍帳をも贈り、古地、三山、文、下  
下條、桂谷、遺、為、主、目、録、未、之、岸、長、圓、也、併  
協合の、墓、方、多、多、給、有、身、取、初、身、在、平、  
才、あり、身、取、移、り、し、少、所、を、多、く、無、五、十、山、文、  
三、三、浪、も、も、分、任、平、托、有、勢、に、扶、助、至

月給也、頼母来り吊状を貰ふ、午後食は  
未亡人を幼少を夫吹笛をやりこころを托す  
の家来を即世院法要の進子と姫  
リ来り、又下林久雄を祝物を贈り来り  
二の夜歩祝物と物を贈り来り、又刻  
文三来り、親身上の事と内訌す

二十八日

雨、加田信桂秀、股部耕不可得、此  
村良久来、活帝意の事を内訌して来り、  
新内新也、社と原お紙を送り来り、  
旋中子を来り、又山易更り、銀一則  
録し、成後家来、佛子と香を

郵送す

二十九日

吹、村井出り、二カ田借入、七カ田  
行期限の約手、二枚(三千カ田)更  
と、割引を頼む、一千田、五分、  
三十日、和、田、若、友、と、来、出、手  
泥、淑、印、為、親、田、後、百、カ、田、を、贈、り、来、り、  
辻、未、亡、人、来、切、物、を、贈、り、来、り、  
銀、一、百、元、任、他、を、山、と、決、し、  
銀、一、百、元、任、他、を、山、と、決、し、  
稿、を、世、に、時、を、移、す、  
石、井、好、大、印、を、



増資し、其前に當興金を後資に増  
興し、多んと以て九十二回五十五株迄に達  
し、此の多きを以後と三割の配当を  
限度とし、故令を早稲田大谷に寄附  
し、其の一本を山に當興し、七十三株  
つ、贈其に、小久江を元締役に移す  
る、坂本三郎と監査役とする、金  
子馬次を取締役顧問とする、小久江  
を代理部長の釋するとして、及、尾を圓  
する、主事と、元締役、並、務を度  
する、又、高田俊作、評任、并、年金を  
興つる、其の才を決し、正式令成に附す

午後二時半に到り、更に大  
股長、佐田、編、委員、等、に、心、を、用、時、を、由  
宅、郵、船、合、社、配、当、金、一、割、五、分、合、計、全、額、  
三十七回五十五株、並、家、大、監、院、釋、尼、妙  
靜、忘、助、の、弟、幼、并、に、茶、列、來、

〇  
六月

一日

兩岸を森地又か、り、支、江、成、之、種、村、宗、  
來、法、藝、藝、藝、藝、四、冊、能、本、施、録、を、業、  
夫、午後五時、並、四、の、東、洋、キ、子、マ、の、活、動、を、  
口、心、一、つ、ド、を、視、る、夜、三、時、并、に、拂、渡、二、  
回、の、地、方、者、あり、時、分、此、に、長、し、高、橋、深、一、中、の、來、

二日

雨、次第、漸次をなす。新也、亮をうへ、午後同  
録を更さず、十時高田河原長への就任式に臨み、十  
一時退去つて、日以谷物に専ら、行き(帝也)の重  
後等と協如、井打社中退の件、三井協議  
す、内田只亭より再会を切して散す。  
四時高科大なる園を遊、到り園を遊場、  
の評議、丸をと臨む。大急、後に、里を、家に  
して八時ゆき、出政部を、余の書、書三  
符の印税三月迄、五分なる、七田、九表、交  
録、直、此、掛、治、中、店、を、し、り、ま、す、也、

三日

陰早朝又地震あり、取成ら、符、子、耳、力、的、力  
茶、後、各、と、出、席、を、と、し、て、之、り、平、轉  
先帝(也)の件、内、流、一、と、ある、午、後、出、遊、一  
ニ書、者、を、切、る、金、春、錦、の、珠、書、一、ア、ラ、ウ  
オの志、と、見、上、回、を、経、て、浅、学、の、一、晩、念  
一と、う、る、一、店、井、一、ら、と、し、り、ま、す、也、

四日

晴、西、心、を、夏、外、套、を、注、又、す、此、候、の、用、也  
村、に、二、中、中、田、海、五、山、岸、和、耳、流、故、賀  
田、金、三、中、の、倚、記、を、心、と、ん、と、す、其、方、候、令



「しよ西村聰を考し、余の後説をとし、即ち一時  
時をむう、後説を考し、宗家并丹  
兵原平一と、三時と、大隈全北に於  
ける、城依守考、後説を考し、未丁月四十年  
紀念會を刊し、行二、城依守考、後説を考し、  
田龍一、北原一、物來印、丹を考し、北原  
瑠璃、殿清、税、園、製、北、肉、作、也、

廿日

兩、十一日二時、早大准、おる、今、今、通、院、并、二  
決、昇、之、列、の、和、田、著、ま、ま、と、自、家、海、濱、并、二  
目、録、類、を、考、し、村、口、公、存、と、し、早、大、書、田、村

来、の、場、合、と、し、と、考、し、九、の、出、版、部、親、刻  
今、の、切、り、二、枚、引、の、有、生、産、(和、田、池、田  
：謝、公、と、考、し、中、田、初、吾、傳、記、編、輯、を  
考、し、早、大、書、橋、井、清、之、中、二、部、を、考、し、  
す、古、池、二、出、書、代、六、十、四、冊、寸、路、公、書、山、帖、三  
帖、購、入、皆、お、前、の、刻、北、價、五、十、五、日、也、社、會、主  
義、者、の、大、換、奉、始、ま、す、新、文、集、お、生、づ、早、大  
も、二、教、授、家、宅、授、家、を、受、け、た、う、と、考、し、  
考、書、骨、董、旋、悠、記、お、大、花、准、之、と、考、し、余、の、説  
と、考、し、早、大、と、し、と、考、し、十、日、を、約、し、と、考、し、  
村、口、公、存、二、回、出、を、考、し、偶、々、朝、倉、公、存、三、二、今  
考、し、お、早、大、と、し、と、考、し、須、田、何、の、其、酒、店、に



八日

曇朝未始録を草す。岸私事あり。株村あり。書致あり。十時印刷舎社の重役会に臨む。廿六日半年株主総会に附す。決り昇配利率等を協議す。本季の成績一割五分(一割四の利益を備蓄のせり。控除一七)と定む。帰宅後五時半東込物を贈る。長時間談話あり。今日北白川完の葬儀あり。白書郵船會社新築、引移中。焼く。秋未雨あり。

九日

雨。早起始録を草す。改訂五時半東込十時印刷舎に到り重役会に臨む。前四幹部を控へ内談し。此件悉く決りし。其も一言真意を以て株を拂込し。此件決り。一時は好ぬ。是とせ。み。米。作。見。を。割。を。見。ふ。こ。れ。を。道。過。し。ま。あ。り。え。朝。日。紙。の。主。張。こ。う。い。ふ。の。也。州。長。原。平。と。山。陽。電。氣。の。意。の。字。と。つ。と。ま。り。ま。す。本。の。意。の。と。の。株。向。致。を。内。談。す。

十日

雨。氣。方。在。り。方。橋。義。彦。と。も。考。古。園。集。成。

後葬と嫁つ来る、内山有三奉り例に施法  
をせしむ二時百餘り法を奉り銀せしむ  
種村出版部の要件、廿五日午後浅  
谷に散策浅谷倉屋に回をを婚ひ和生  
に廻りり物をも、早大らと連達使すも  
の維新多々也、此すまき山花利氣、夜未  
又和

十一日

雨冷氣甚し、改上弘為事、例の注射を施  
す、大隈侯も廿六日綾子夫人五十日祭に奉  
内状利、小久江其一長男の妾の訃訃を奉

畫骨董施法の考ある印の味法を約  
三時百に己りす、録せしむ、其清味人其  
功大隈侯侍記は、其福澤家に存す  
る治大料、このとき云々して去る、今津八の紙  
成りし和田垣良確來稿、和田垣通三の事  
ニも也、午後二時早大の維新多々也、此す  
決り兼、其思想問題、度し七時間減  
るをいらき、五時内山和田若吉來物  
に、其お伴あり、田原屋に、飯、自郵、其  
物、其帝別を名る、其物出版部、其  
ニ、其若吉、其見物を併せし也、十時  
る、其是の河、其得、其ムベリ、其

道達の碑に元元二十ニ及ぶ元と以て  
故處とすといふ。相本本集と稱す

十二日

雨勢多し、風邪の氣味あり。五時半、東法  
内倉久寛、時部耕衣と出せぬ。十一  
時、神楽坂に、羅紙本を、梅山四谷二回  
り、三河局に飲し、うら、高橋義彦と  
同す。植木屋来り、松の手入を、如志、假  
寐、二三時間、三枚光を、うら、高橋義彦、  
田兼吉と、謝志、利、福録と、筆す。

十三日

陰、感冒、依死、多、木森、助、今、多、病、自、来、功、味  
村、希、多、問、然、三、村、来、法、今、律、二、の、如、み、  
て、原、田、文、十、印、扶、十、顆、好、多、多、服、部、耕、衣、岸  
至、来、功、十、時、多、出、版、部、と、列、り、の、日、此、今  
に、附、了、き、件、と、協、調、し、る、高、橋、義、彦、三  
枚、光、を、一、三、回、す、古、画、背、董、旋、紙、の、大  
巻、帷、夫、三、原、稿、と、郵、送、す、植、木、屋、一  
人、引、つ、て、来、る、病、多、る、如、の、風、邪、也、  
く、無、病、来、し、て、庭、園、の、枯、葉、を、拂  
ふ、

昨、赤地又治中來法、原田文三印、共十點、  
代六日、柳浦、田村、堀尾の件、并來、文、の、  
院、是、近、刊、志、意、と、文、子、紀、本、十、時、出、版、部、  
の、株、主、統、合、の、協、同、今、期、配、当、千、六、百、五、十、  
九、圓、三、十、八、錢、當、與、金、老、千、四、百、圓、定、額、と、改、正、  
す、午、後、大、隈、侯、傳、記、編、纂、の、旨、を、以、て、  
三、時、段、に、五、堂、年、の、為、り、の、内、に、宿、又、一、覽、を、  
令、社、に、功、の、を、改、正、の、所、有、地、を、受、印、し、付、  
こ、の、内、張、す、る、由、故、一、二、冊、の、出、版、を、功、  
あ、る、所、へ、の、本、の、大、隈、侯、傳、記、念、念、業、  
字、の、所、を、本、年、分、立、る、用、の、内、半、額、納、

入、出、部、の、借、入、金、を、千、圓、返、却、し、  
大、日、本、比、名、辭、典、(後、東)一、冊、配、本、松、雲、  
巻、の、代、二、十、圓、折、返、す、田、村、在、二、百、二、  
十、圓、を、折、し、山、陽、書、局、一、冊、成、る、

曇、早、紀、館、を、訪、し、金、七、百、圓、銀、  
行、預、け、入、り、五、堂、年、來、法、北、紙、傳、記、  
六、部、を、上、代、四、十、二、圓、交、付、種、村、身、元、  
内、務、入、金、三、百、圓、を、受、け、五、月、五、日、紐、  
を、着、し、海、英、と、り、時、に、見、入、り、  
● 給、を、(三)矢、次、者、三、と、し、利、達、業、

十五日龍節着の徳元いさぎ別る、内奉三代  
り服部耕石に印四段の刻を依頼す、十  
一時光を伴ひて別出村に去るに之等者物  
代三石内拂ふ又松又中を四十日拂  
掲げし月月中に致し別生に物を懸  
至春分改の映書と見え浅き三四つ  
全田に致して之、早大出改に  
刊也二冊配本

十一の

兩大隈綾子夫人五十日祭午前に時半見  
つ巻前、松を奉行、片先刻、鐘を別  
印に松を五前祭氣行に臨み終つて  
大隈信銀、午祭心の御言を多く来合者  
約百六十名也、四時高利大々回出彼  
二回と彼御言の美多を奉為入をい  
く、余も信店程と協誠行る入り由也  
書曰、頼母木桂吉と希る、し件と内  
議す、終帖十二帖一函購入此價五十圓  
也

十七の

日曜

而服部耕石も此、御言を頼り大合し件  
二冊来た内奉又更、二回す、用に乗して旋

録を業す。而中出ぬ本心の名を云居を  
記して、動情を代にまゐる。山陽、石井、  
五印、と物を送り来る。高橋源一印、  
牙商

十八日

和氣、海、と、多、支山、幸、志、山、田、心、来、泊、高、橋  
源一印、と、卷、山、服、却、耕、石、と、同、す、山、陽、史  
事、録、の、原、稿、を、心、に、睡、蓮、娘、也、と、華、と、  
く、午、後、神、田、の、出、店、を、記、し、て、四、五、の、紙  
書、を、購、よ、と、之、を、其、時、桂、宿、中、店、に、出、置  
ま、す、と、高、橋、源、一、印、を、郵、送、す、と、云、を

并、細、山、出、店、と、二十、山、の、計、四、十、日、掛、通、  
茶、義、一、と、酒、と、梅、田、油、を、貯、り、て、護、國、雜  
記、を、讀、み、夕、刻、に、到、り、深、夜、覆、盆、の、雨、を

十九日

雨、未、脚、山、下、奉、衣、身、功、十、時、往、村、と、せ  
に、名、を、通、を、功、を、山、陽、抄、の、端、紙、を、あ、す  
午、後、終、録、を、筆、し、し、時、を、移、す、今、月、八  
一、と、し、長、岡、判、り、

二十日

此、坂、上、山、花、事、了、例、の、注、釈、を、詠、す、紙、信、也



幹子未<sub>レ</sub>又法<sub>ハ</sub>善<sub>ニ</sub>能<sub>ル</sub>事功<sub>ハ</sub>高<sub>ク</sub>格<sub>ニ</sub>義<sub>彦</sub>  
しと<sub>ハ</sub>五十<sub>ニ</sub>の<sub>ハ</sub>石<sub>ハ</sub>有<sub>リ</sub>田<sub>ハ</sub>地<sub>ハ</sub>心<sub>ハ</sub>徳<sub>ハ</sub>未<sub>レ</sub>勘<sub>定</sub>十<sub>ニ</sub>年  
七月<sub>ハ</sub>し<sub>ハ</sub>本年<sub>ハ</sub>三月<sub>ハ</sub>末<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>八<sub>ハ</sub>十八<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>四<sub>ハ</sub>十四<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>郵  
便<sub>ハ</sub>為<sub>レ</sub>終<sub>ル</sub>を<sub>レ</sub>利<sub>ハ</sub>達<sub>ス</sub>為<sub>レ</sub>尾<sub>方</sub>店<sub>ハ</sub>海<sub>義</sub>好<sub>井</sub>  
不用<sub>ル</sub>旋<sub>本</sub>を<sub>レ</sub>夫<sub>レ</sub>却<sub>ル</sub>此<sub>ハ</sub>價<sub>ハ</sub>三<sub>十二</sub>の<sub>ハ</sub>也<sub>ハ</sub>並<sub>木</sub>  
覺<sub>大</sub>り<sub>来</sub>来<sub>流</sub>高<sub>格</sub>義<sub>彦</sub>の<sub>ハ</sub>河<sub>ハ</sub>す<sub>ハ</sub>并<sub>後</sub>又  
雨<sub>干</sub>後<sub>出</sub>游<sub>ハ</sub>以<sub>ハ</sub>染<sub>郵</sub>船<sub>分</sub>地<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>ビ<sub>ル</sub>デ<sub>ニ</sub>グ<sub>ア</sub>  
の<sub>ハ</sub>海<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>度<sub>ハ</sub>現<sub>令</sub>を<sub>レ</sub>見<sub>ル</sub>又<sub>ビ</sub>ル<sub>デ</sub>ニ<sub>グ</sub>内<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>  
大<sub>丸</sub>若<sub>殿</sub>店<sub>ハ</sub>を<sub>レ</sub>功<sub>ハ</sub>ひ<sub>ハ</sub>終<sub>ハ</sub>に<sub>淺</sub>者<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>四<sub>ハ</sub>つ<sub>り</sub>  
淺<sub>分</sub>局<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>回<sub>ハ</sub>出<sub>ハ</sub>を<sub>レ</sub>務<sub>ハ</sub>め<sub>レ</sub>て<sub>ハ</sub>こ<sub>ハ</sub>ら<sub>ハ</sub>す<sub>ハ</sub>。

二十一

雨<sub>大</sub>隈<sub>別</sub>邸<sub>を</sub>し<sub>未</sub>立<sub>人</sub>の<sub>ハ</sub>紀<sub>念</sub>を<sub>レ</sub>と<sub>し</sub>て<sub>首</sub>  
飾<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>真<sub>珠</sub>を<sub>レ</sub>禮<sub>ハ</sub>節<sub>を</sub>し<sub>て</sub>女<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>一<sub>具</sub>伊<sub>若</sub>若<sub>里</sub>  
防<sub>兵</sub>火<sub>鉢</sub>恫<sub>者</sub>益<sub>ハ</sub>伊<sub>若</sub>利<sub>若</sub>大<sub>入</sub>装<sub>束</sub>  
衣<sub>三</sub>靴<sub>短</sub>短<sub>ハ</sub>服<sub>部</sub>耕<sub>石</sub>未<sub>レ</sub>功<sub>ハ</sub>内<sub>若</sub>の<sub>ハ</sub>  
為<sub>レ</sub>の<sub>ハ</sub>又<sub>嶋</sub>し<sub>て</sub>印<sub>四</sub>顆<sub>成</sub>了<sub>ハ</sub>房<sub>瀬</sub>正<sub>信</sub>大<sub>津</sub>  
津<sub>津</sub>の<sub>ハ</sub>下<sub>入</sub>を<sub>レ</sub>為<sub>ス</sub>内<sub>若</sub>の<sub>ハ</sub>間<sub>ハ</sub>す<sub>且</sub>印<sub>四</sub>  
顆<sub>ハ</sub>し<sub>て</sub>こ<sub>ハ</sub>ら<sub>ハ</sub>す<sub>也</sub>古<sub>山</sub>の<sub>ハ</sub>方<sub>思</sub>彦<sub>ハ</sub>謝<sub>也</sub>を<sub>レ</sub>  
為<sub>ス</sub>又<sub>大</sub>隈<sub>家</sub>の<sub>ハ</sub>忌<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>換<sub>抄</sub>と<sub>し</sub>て<sub>ハ</sub>  
白<sub>侶</sub>を<sub>レ</sub>贈<sub>ス</sub>傾<sub>城</sub>夢<sub>程</sub>氣<sub>を</sub>後<sub>也</sub>

二十二





五令可くしり、重後お務後弘多録。  
あつたの分をいへり。

二十七の

此家用拂のあつた田内あり海あり、藤村お  
福印刷券二る十田也り、印刷券此く拂  
畢し、印刷券此記印中人主五る十、田妻衣衣  
今万四十田七拾契也、録収此金銀の、頼  
け入る、十時お出旅田のち店を功あ  
て若千の田を贈山、山本お店、縁帳  
代五十田拂通、二時出股部と到り、賞  
典金とて神とをり、新は日七人の株

主を加へせしむる件其他を内訳決定  
す、俵路南とあふ、三木武克洋行に付能  
十の用とて七蟹の泡とを贈る

二十八の

雨雷以、古沈素、三寸珍書、代五十田拂通  
九時とて田を過る出さけ、神田の細の田を  
珍書を贈ひ、二十五田拂通、更なる浅き、浅  
会をを功あし、田を代る二十田拂通、止  
三の田を贈ひ、神田に田あり、更なる一二の  
田を功あし、田を代る、飯して、之より、お出中  
大隈雄子田禮の、ため、身色、山下、拳石、木  
脚、美、相、来、る、至、一、る、内、田、印、と、あ、る、と、七、を、力、田

由あり流す、七月廿日休養印一と記号改、  
あちあちと書く、

二十九日

時、金七千の去る印、改上出局  
あり、注射を施す、素胸種村牙功史  
四次、呉の印、自ら更らる一年合保臨料  
三十、山納付、午後神田、山本公店を功  
あり、荒千の園を購ふ、帰電後、雑誌  
を兼す、四時、工業部、出部、刊、新  
通の重役、多、院、竹村社長、病、新、隠  
退、二、竹、後、任、社、長、二、村、母、木、桂、夫、を、推、す

りて決ま、金名、後、印、書、中、田、通、吾、ら、が  
リヤを贈る

三十日

昨日、朝、早、新、報、を、早、す、り、山、下、奉、衣、白  
雲、山、水、を、高、し、来、り、早、す、り、家、庭、の、青、葉  
を、出、し、日、覧、高、田、流、長、と、し、十、二、日、自、郵、く  
振、う、る、又、吹、者、三、プ、ラ、ー、グ、を、後、の、り、き、り  
の、五、月、二、十、四、日、(考)大、崎、屋、を、も、り、及、折、を、購、ふ、  
南、茨、大、三、庫、と、し、早、田、二、百、又、徳、川、美、三、机  
り、午、後、散、策、那、田、の、考、店、二、回、出、を、購、  
ふ、を、也、二、夜、早、の、再、あ、り、入、真、治、店、を、余



あ、夜来又雨

四日

晴、朝来強風を来す、内庭又寛之筒す、九  
時、出政部の重役会と信あり、賞典金  
一、多株金拂込、一、多株主六人新加、一、多  
等皆決す、未卷四民の日本文中不都  
合し、寛之筒入改、先を海へ、寛之筒入を除  
く、竹種、面倒と寛之筒入午後、信あり、信  
あり、物も、出政の、田も、出し、示し、時を  
移す、南葵又産、一、多、早大、  
未だ

五日

晴、再城又治り、一、多、田村宗考、  
東坊、為、取、後、取、用、と、早、山、出、信、  
口、校、互、と、一、向、を、出、山、田、出、信、  
並、木、光、在、中、一、時、と、早、坊、一、金、三、  
の、信、と、早、一、時、と、前、月、の、後、信、  
本、二、冊、配、本、と、一、時、と、早、坊、一、  
移、早、坊、一、時、と、早、坊、一、時、  
三、冊、信、一、時、と、早、坊、一、時、  
夕、刻、と、早、坊、一、時、と、早、坊、一、  
一、朝、の、信、と、早、坊、一、時、と、早、  
一、夜、来、又、雨、神、田、の、田、出、を、

雨相母よりきき難報をききし。下村正太郎  
神上の業之中の病を報す。午後新築の  
文の場へきき難報をききし。雨相母  
又筆硯を親しむ。大刺元を伴ふ。出游  
田原屋に飯す。北澤樂天より来す。

雨令母よりきき難報をききし。下村正太郎  
十時印刷会社の新築分を報す。十音の  
相崎に相く校する。余の此分を納束し  
来す。三時内ある。余と今社に居る。此分を報す。

物取神の四の圓を購ひ山本お屋に二百圓  
松宮中二十圓併中田海吾倫池材料  
十四年政變に関する福原お井上之出  
洞を小田柿捨次より借り受くる。

雨相母朝母難報をききし。中田正太郎  
やの花を贈る。森脇名義并来取。坂本  
三郎父死去。自香典を贈る。十一時お出  
園を過る。本心より神田を廻り。風月を  
に似せし。高橋原より来す。古  
池書三来す。



雨内お梅井とて宅に來り、改上必死  
すまう例の注射を施す北澤樂天に出状  
を呈する、松雲中書來り出状代の内、金  
十兩并に不用旋本を呈す、午後二時早  
大の維持費等に臨む、和島在平も亦  
甚き湯の勢より上三軒の行場湖す、十一日午  
前九時の圓心級連築あり、この道に  
今の中選に大隈元公講中、越貴回  
案を大志心につきて、遊説可

雨霽、赤堀池大江に赤門、赤池、  
リ印林一軒、晴い入る、山岸在、鐘も  
山陽迄、六十七枚書き、海へ、本口、赤  
の重役、今、断つて、赤席、今、海、是、  
求の、出、状、了、赤、向、の、書、録、を、送、り、て、  
雨、中、一、徳、川、炭、を、麻、布、を、切、り、大、田、若  
三、郎、七、十、五、日、圓、を、送、り、美、加、屋、の、件  
を、分、度、と、長、時、可、場、候、晩、の、後、又  
多、分、候、し、深、更、の、宅

雨、圓、心、級、連、志、見、出、利、達、九、時、大、隈、公、候

二列し流夫其他各物の南に向て園を設け  
二甘揚儀十二的日と湯の湯候下り  
り此若(雅歌)と題する。岸並今物  
二月森脚美折し回物ありま物政  
中津の酒井夫平。一と出来出。和  
作平在り接す。寢後柏崎の校友  
大合と余の出席と承ある電報列

十二。

時古池津三本ある西崎ち浦の寸紙を贈  
外竹村良久今此の件自ら紙に  
或次郎一方便屋傷記材料。調

紙和島在平。一と為二千九百四  
二裏出と為す。山下奉元其功。龍  
と兼す。帝あり半香。謝儀六十五  
領収。十一時先回付。散葉。田の  
功一。二の山と精ひ。細田。山  
根生。物と精ひ。全春。竹の  
四。谷。三。河。包。一。物。と。一。

十三。

雨村山油し物。白衣の長。前  
船。定。を。と。の。唐。金。扇。梅。石。の。也。久。須。美  
秀。三。中。本。功。物。を。贈。る。龍。保。と。兼。

正午にむかひ、中元の贈答始まる。まず、  
才あり、秋をこぞ、唯をわす、午後、あま、馬  
の原村、藤島、先づ、山崎、集と、後、又、且  
つ、抄、一、時、を、福、す、夕、刻、動、政、の、高、田、電  
：松、え、四、八、と、此、に、到、り、事、分、る、約、十、名、公  
後、高、田、より、紀、念、う、る、を、為、物、各、二、を、皆  
い、い、祝、つ、余、山、梨、福、川、平、士、祝、の、出、席、を  
さ、く、十、時、帰、定

十四日

雨、森、望、三、森、胸、美、村、来、訪、中、田、海、兵、舟、  
訪、十、時、文、の、協、会、の、お、り、お、あ、り、不、二、利、り、岸、部

分、を、い、ら、く、大、隈、分、会、の、お、り、お、あ、り、不、二、利、り、岸、部  
え、の、午、前、を、為、す、午、後、坪、松、友、頼、田、木、桂、吉  
二、出、状、を、お、り、お、あ、り、不、二、利、り、岸、部  
と、い、ら、く、七、十、田、利、来、津、田、の、お、り、お、あ、り、不、二、利、り、岸、部  
三、四、の、回、出、を、得、て、い、ら、く、今、夜、柏、崎、の、校、友  
会、に、出、席、の、お、り、お、あ、り、不、二、利、り、岸、部  
塩、津、自、動、車、の、お、り、お、あ、り、不、二、利、り、岸、部  
坊、に、到、り、八、時、四、十、分、の、名、行、汽、車、に、投、入  
一、行、塩、津、昌、貞、山、岸、光、宣、事、務、員、の、お、り、お、あ、り、不、二、利、り、岸、部  
也、汽、車、中、久、須、美、東、馬、の、お、り、お、あ、り、不、二、利、り、岸、部

十五日

明、今朝六時柏崎着、校友及数人出立、海  
岸の天層に入る、清お泰次郎の墓あり、  
一行にかゝり、新のちる墓あり、清お校友  
余、余の校友の紀念する墓、墓あり、件  
四五の校友と方法を協議す、午後一時、  
校友を合席あり、講演会をもひらき、  
山岸清お溝渕を為す、余、清渕を  
断り、校友あり、在り人の需に、  
す、講演後、阿部校友会をもひらき、議  
る二三件、余、席上、校友の近況、つぎ三  
十分、清り、演説し、つぎ宴會、  
日会する、よる二十校友、宴終り、別席と

五七の校友と、余のをひらき、  
一三

十六日

明、早朝校友の墓あり、  
清神、清り、海景を又、  
清、寺の折、清野立の、  
之碑を見る、此附近、  
陽物の石像あり、自然、  
時代古く、彫刻、  
土地あり、石像あり、  
の味相す、余、是、  
此地を、

券のよきを見らるる今四初め也。新約の校  
友新約に来ることを強請すに志す  
るの意は従い樂故後一時四十分抵後  
鐵道も新約に向ふ北鐵道久須美  
の停留所に停る。余等の為めは特別の  
扱を為す、沿道の大津津の水路を  
見る、前年大河津と川敷を中する  
うがの横流を見る。今四初め也。北  
線路抵田河を過く、満目ち、田河地域  
甚比廣し、抵後の市を見ん。北線路  
に據らざるを得ず、新約に之を校友川  
上河馬車中に入り来る、午後十二時半

白山驛に着、久須美東馬外二三校友出  
し、直に自動車と乗り、田河抵、校友  
校友、訪ひ来る、酒を余し、四五校  
友と杯を奉け、扶法縦横四時、已り  
校友と座す、彼等皆余の末に志す  
るの意を余に告ぐ、余は、ハハの校友  
余も、酒と酒をつつけんと、其時錫茶  
屋に別る、市内の校友二十餘名、余  
席上一時、ハハを試み、ハハ  
縦横中、春風満つ、一行、余ら、ハハ  
の辞合、ハハを終し、校友、ハハの  
志練るるを云ふ、北、ハハを校友、

此く在り故の纏頭ニ元元ことを求む枝  
友辭しはれども強くて黙つて十一時迄を撤  
し七時頃こころふ、その午後一時を以て酒  
を食らう十一時に来り、十時百の飲めつ、け  
ハ余に於ても此年無きことあり、酒の酒  
を一種の風味あり快也し

十七日

今朝六時横濱船士と九に岩城船士  
由京の途こ上る、出岸清水の二敷授之て  
里高向く立寄らん為めに横濱に據る、  
早晨不便なるのみならず終日車中

無聊を極むるの不利あり、夜行七とら便  
なるも一日新居に在るを枝友を煩了原  
こころなるも奈の早晨を清し等所以  
也、第云所東浦原津川に回車す、河  
谷道の風光を弄して車中朝飯を去  
り、先漸やく睡氣を感じ横臥二時  
間九時十分荒松に着、十二時十分郡山  
解りて下車し、本線の海道に乗り換  
換の帯の麦酒を飲け横臥を以て後  
又二時百睡臥を食らふ七時十六分上野  
に着、自動車を駕りて北の河  
津行余の使命を早大の記念する某

を幕乞しし、多岐多にお言切を校友に紹  
介し、且つ若布集の方法を書画せんとするに  
あ  
り、柏崎に於て又新編三校を志せらるる校友  
に感する入、此をも以てし、今この余の使念  
にんこあるに、故也

十八

兩、朝日校の中し。と、徳と旅記と等  
ま、二人に種村来り、出版部代理部  
の前進、このとき、吉時河、柳瀬、岸、を  
古池、来り、古池、吉浦、西丹、代、十、者  
交付、市河、三陽、三、を、の、四、時、高、科、大、者、回

と、校、に、移、て、回、方、校、協、会、の、委、員、会、を、い、ら、ま、き  
余、り、二、三、件、を、提、議、決、定、を、す、今、の、日、の、一、二、  
出、校、を、め、る、す、内、山、者、三、に、り、し、み、出、し、獨  
軍、の、為、の、の、破、壊、を、ん、と、白、耳、義、ル、ウ、ガ  
ア、二、大、回、回、の、校、を、回、復、を、力、の、回、復  
的、に、接、助、を、具、ある、計、畫、あり、余、も、回、復  
の、機、能、委、員、を、奉、け、え、之、を、と、懸、す

十九

時、早、朝、朝、日、校、木、桂、ま、三、市、通、の、件、を、  
詠、後、と、三、女、五、十、の、況、を、と、後、校、に  
廿、七、月、三、十、日、校、友、の、家、に、招、き、る、(保、陰、協

月)在ち此紀回也畏三印巻の子有にす  
訪物を終く。雖と山の海心すもの、内山者  
三三間、徳川頼倫侯に公状を呈す。古  
池書畫と持卷又柳外畫する所の豆帳  
十帖と書入りしをもちまかり示す。こ  
る柳外の掛巻をいふるぬらぬら、豆  
本の本家より切るも未だ無しと一足す。  
午後旋命如所来、出ろ、赤田三回を  
踏み、市河三湯しす。

二十日

所、朝来山湯の送子一則とある、今此二

より来出、九時半、出次郡の株主総会に  
臨む、数日後拂込を執行の決し、先づ  
賞典金を分つ、余の決受ける金額  
共七十七万円也、右を拂込に充つるに  
銀行に頼く、銀行は終るも、まゝに役員  
會を併き代理部を五番目の合資  
会社とす、出次郡らと、獨りて  
金の分決す、出次郡らと、近刊出杉森  
者次郎の長、出次郡則配本あり、市  
河三湯、花巻死一又流と終る、午後  
驟雨利る、雨に乘り、雑木を著し、湯  
に利り、已古、山岸光直とす、来出日湯七



とて借入至利子の件は本年荷物斗又兩

廿一。

三浦山岸先宣市河三陽に出状を呈す。其  
三陽田畑の租付金引出す。日付出立帳より  
四千兩借入至利子納付。東陽岸東陽  
去つて樵の山行と後出。又午後四時より  
雜貨を申す。荷物の、河邊亭に祝物を送る

二十二日。唯

兩出取印をとり直利葉出二程。肥本。政上  
山岸より注射を施す。雜貨を申す。十一

時を付めぬ。亦田に散葉。二二出立を記し。金  
目と飯し。銀生に物を繕ひ。各春銀の映  
畫を元し。公文三本あり。

二十三日。

所市河三陽に出状を呈す。大池に出立代  
二十兩辨(内十兩不用印)と物とを。十時大隈  
炭俵に備置倉に送り。午後文の場守と  
不判り文化祭より。種々揃儀す。四の物書  
は乃新佐知より。原新三と。撰抄状の  
ヨツテ工露本四。日頃の物と。出つ  
た。一。格や字全儀。

馬島直吉(朝子)千室の故出政存  
余の指導を乞ふとて其の按古研を贈る  
長崎の官治とてある。旋報を寄す。此の物  
す。其の桂のりらとて其の由。重治料を  
地稅府稅三十四圓三十九錢納入。其の  
返向を授す。午後花居旋報十數枚  
を筆す。

朝日旋報を筆す。馬島直吉大隈  
侯に才三期の給を乞ふとて其の由。其の  
由り此の由り。又千室の由り。其の由り。

由り此の由り。又千室の由り。其の由り。  
のり決し。其の由り。市河三陽の由り。  
由り此の由り。標榜集の由り。  
寄る。其の由り。一ポルドルの由り。  
念の由り。十一時迄を由り。其の由り。  
銀生。其の由り。天金の由り。其の由り。  
其の由り。其の由り。其の由り。  
其の由り。其の由り。其の由り。

朝日旋報を筆す。以須美言の由り。  
由り此の由り。其の由り。其の由り。

○石高の展覧選印、并、印譜を拍春、  
後、出立中の、留言留と、官報刊文  
久須美の、仁、印、部、也、も、又、又  
和、田、常、走、の、投、筒、午、後、閑、臥、書、を、讀、む、

二十七。

時、在、池、素、三、中、江、杜、織、の、飯、瑞、風、作、の、大、物  
を、拍、春、婚、入、十、時、大、隈、合、飲、身、向、塔、内、言  
四、片、上、等、と、合、飲、し、十、月、に、演、劇、展、覧、會、を  
十、月、に、ペ、ー、ジ、エ、ン、ト、並、兒、童、劇、と、合、飲  
ニ、洋、行、の、日、誌、般、之、事、を、暢、談、し、午、後、の、後  
散、會、休、養、兩、平、ニ、云、と、考、考、を、記、念、す、

業、務、多、き、の、こ、と、を、閑、す、山、田、内、信、と、し、来、心  
喜、代、四、耳、の、才、油、集、を、讀、む、

二十八。

時、分、相、二、三、回、下、廁、内、山、有、三、身、又、八、月、號  
花、油、時、勢、の、多、る、致、味、能、疾、を、為、し、  
鉢、を、し、む、正、午、に、を、り、に、て、午、後、の、後、又、下  
廁、一、次、一、時、半、文、的、場、會、の、茶、飲、會、有、り、  
方、悞、會、然、に、到、る、下、廁、又、一、次、終、に、合、飲、  
去、人、控、し、七、時、半、靜、養、の、閑、臥、者、を、讀、む、  
昂、々、狀、房、別、北、條、に、赴、く、和、田、常、為、吉、と、し、可、也、

二十九日



を交へ、宛紙と筆をす、佐藤安平とす  
也、余の印紙と靴をたる出書し骨董宛紙数  
部来り、折電を二回と有す、午後炎熱云  
し頻り湯を交へ未だ氷を嚙むことを  
つしむ、ガシノレヨウゴの湯湯を飲む湯  
を醫しとを誤し且つ折す、此の植物の汁  
下痢を醫す、和氣正平静の身上より  
治、佐伯叔父又保徳舎此の件、折電  
あり、折電入り折電あり太田為三と  
来電、二日午後四時余の宅に、今午  
を報し来り、因り破協舎と書き内紙の  
也

〇八月

一日

昨今朝三四下廟より最早略金由、十時大  
隈令儀、高田保由園を改定、折電あり  
淡利屋の宛り、折電にペセント折電あり  
時協儀舎の後由書文三来り、静の身上  
に、折電あり、池田隆一、折本三印、折  
折本に就て大隈未交、折後、折電あり  
此の折電を交へ、佐伯叔父とす、折電あり  
後出法中の折電あり、折電あり、折電あり  
折電あり、折電あり、折電あり、折電あり



堀田南溪の山形と狩る午後既云  
を談ふ、突如中一、風あり、未だ通鳥  
地を遊ぶの念あり、太田君より  
尚

廿日

日曜

昨九時藤島寺に到り大隈元斎と西の  
墓を拜ふ、寺に夫人の石あり、祭執行、北澤  
樂天橋本勲太も来出、十時迄を伴て  
浅学、に到り浅学を、回とを、時ひ二十四  
拂入、大全に午、中、雨あり、雷あり、を  
侍、帝、回、飯、の、映、畫、と、觀、帰、路、神、田、の、風  
月、の、曉、を、と、こ、り、く、

二日

昨、水谷次郎、申、接、九時、を、文、の、場、を  
申、あ、り、に、到、り、杉、山、の、三、三、と、准、新、の、車  
日本、の、書、文、的、を、今、の、興、し、と、外、四、人、を  
油、煮、し、午、後、二、時、の、電、尚、帝、大、の、関係  
あり、外、四、人、後、歴、を、檢、閲、云、猿、時、を  
移、す、大、概、如、電、の、云、と、見、か、す、能、否  
を、兼、し、と、夕、陽、に、到、り、村、崎、靖、雄、を  
也、状、と、見、す、

明、紳人の囑：夜し扇而揮甚也。井村良次、  
話、当須也。信を以て、村井親の幼少、幼  
弟、自ら交する三平の、割引、信に、函、暴  
書を、如、古池、集三、こ、い、画、紙、と、悔、如、  
家、人、衣、履、の、配、不、し、を、為、す、午、時、麦、酒  
一、瓶、を、傾、け、半、睡、の、元、め、来、り、旋、回、と、葉  
去、矣、此、云、し、後、身、入、浴、漸、か、く、涼、と、元  
也、初、田、著、者、と、し、来、也、

明、前、云、切、形、の、形、を、い、は、す、善、生、の、報

告、を、ら、う、坂、に、五、年、身、功、物、を、贈、る、久  
須、美、雪、中、岸、の、寺、交、来、る、午、後  
山、陽、逸、子、の、信、を、心、る、こ、こ、十、教、板、  
山、の、山、陽、大、親、を、親、後、し、こ、こ、陽、の、心、る、

明、朝、身、能、報、を、養、す、太、田、為、三、り、ら、こ、こ、  
日、干、後、如、水、流、る、を、徳、川、辰、に、而、合、の、約、る、  
の、合、而、通、知、を、受、く、高、須、梅、屋、才、其、治、  
井、深、に、加、藤、の、尾、海、即、月、磨、治、其、の、結、果、  
得、以、材、料、を、長、の、百、取、し、て、去、る、今、年、  
ハ、一、と、し、其、心、干、後、又、雜、報、を、養、す、今、



津八一と申す。且つ支那扇二枚を贈る  
。楊井内中へ此札を呈す。又人々津に  
漸出と申す。昔紙に依りて。晩方一浴を  
酒を飲りて初めを蘇生の思あり

十日

晴市河三陽を以て来出。古池来り又寸跡を  
帳を時ふ。心通帳と署しと目録に入る。三陽は  
り墨海教冊贈り来り。直に三陽に荷せ  
増子長一印を流。午後神田の古坊を以て  
大田為三印を高料大寺に送る。此を以て  
時中太田和四郎と徳川頼倫

疾と人々の協会の暮本主の併有。遊談  
疾と別れ。風月を三日。晩おらして其の  
し者合務を協議す。就夜後雷雨  
あり

十一日

晴。矢吹有ニソフ井ヤ長徳を以て。別々。遊談  
を著す。馬島直。岸平来。往完しと  
云ふ。雜徳社と余の者。新七の意見  
を徴し来り。午後三時。散と心り。山  
の絶頂の記を。此を以て。準備を  
を為し。時を移す。



の連絡切符を發行す、五時三十分大  
仁に着、小栗高次郎、其の并に元之友  
人小栗の心也、此の未だ自動車の田乗小  
栗の世話をも定め、茂舎浅坊に投  
す、三階の一室三方塞、一方開け、  
所山を咫尺し、暑を覚む、殊に甚し  
不滿るんとも、なれど、幸に其の  
ちし、敵江七固楽、入ん、暇を、余と、美酒  
を二瓶、傾く、梵鐘、此の、智、此の、元、耳、  
徹り、修善寺の時を報する、鐘、其の、各、後、市  
中を散策す、往年来、遊の、次、と、撰、抄、一、夏  
旅、館、附近の、賣、店、比、数、茶、飲、を、へし、溪流を

沿、り、涼を、趁、ひ、一、時、可、と、舞、り、し、ゆ、り、臥、す、  
而、(宵、安、眠)を、得、す、

十四

昨、朝、身、難、保、と、言、ふ、竟、と、小、栗、此、の、山、と  
出、て、行、く、小、栗、と、此、館、の、山、上、の、別、業、翠、亭、  
秀、園、を、傳、り、自、炊、し、く、あ、り、十、時、以、上、急、を、  
婦、等、訪、ひ、来、る、余、の、室、の、三、方、塞、か、り、を、  
改、め、ん、と、小、栗、と、宿、こ、も、と、海、判、の、末、此、旅、  
館、の、別、在、遊、翠、亭、園、の、ゆ、き、方、あ、り、と、ま、よ  
に、任、う、も、行、き、見、る、料理、厨、分、る、と、且、の、温  
泉、氣、の、ふ、と、く、氣、を、吹、ひ、お、り、ま、え、に、移、る、と

又念いせ、花野のゆくり浴室の真上の一室、  
移る、こゝの三方のきこ階を、厠七階以  
りおり陽菜をうんせとこゝへ引き移る、散策  
中一二の虫冊を購め、午後克又木栗と  
泊りと出で行く、閑臥舎本傍の修善寺  
花壇を譲り入浴所りこゝへ来り初め  
也三四の修えうきも東へ出て、晩の  
散策前夜に満る修善寺の像、腰ひ  
漢経をけりき、枕を仰ぎ寺と出で漢経  
ふんいふがく橋上こゝ立ちあがり、家  
づと一二の物を購めこゝへ出で、物  
数時方睡を待たり

十五の

所、随寺の曉鐘と夢を破え五時起床朝  
食の終るまで山説を讀む、後又華祝を  
昇し施銀を兼す、午後先木栗の家族に付は  
桂川の香魚漁にわく、余と施銀あり、施銀を  
弄し無聊を慰す、佳み来り、獨り散策  
家芭蕉の椎茸を購ひ又花野の下物を  
購ふ、ぬのゆ京と決す、そのを朝日三  
夜七浴場のり入る汗を流す、こゝへ  
あろう、修善寺の湯を何とぞく汚るく  
免し、そのを浴所の不潔を湯めを  
改めたり、あつて、今新式の浴湯こと

二湯場をきき湯あをきよふと意あつた遊の  
の鹿あつてこやボシ七利き身取つて  
余の志ぶく浴場に入るも不以也浴後  
の麦酒を何地か拾へ七作也此夜も  
くの量を用心の代り備へる也夜後  
湯も元も起きる麦酒を飲くと熟睡天の  
こゝろ

十六

昨今朝級後翠香園へ小栗の家族を  
あ園を修善寺境内の山脈に在り十一時  
ほど帰京と決し出立準備をあらう、小栗家

旅自動車同乗大仁近まで来る十二時五  
十分本線九車に投ずる車中お説を讀む  
六時物書 越前守大らうちき銀行  
其他も来る伊勢の地内於此  
由真了山前集と殆り来る、田尻子  
奇炊死の報あり

十七

昨夕方芳治り花軒中をこの二と到る、  
左香港山崎恒四り来る、修禱寺  
又於て書き残しの旅記を著しつる、  
讀み残しのや説を讀こころ、午時  
酒を傾け午時を食ふ、異例こ、五時高

田半峯車道、同往以委彼に到り、飲ぶ夜  
後、多量の雨あり、出政部一とて来出

千八〇

雨、伊勢境内路難、出状を告り、田尻子  
寄死云、二件吊考を為す、庭中し橋  
杉屋より本日架換、少久江味一車流  
古地来三日杜織物代二十田持雨、富  
山の十洋塔一、西爪を蛇り来、向辰  
久、寛永の洋に出状を告り、日本回者館  
城、今と圖書通問、関する議案回  
附

千九〇

時、朝日より曇り、夜を渡む、内山省三、出状  
を告り、伊内(通)送を功、不在、和風文  
三午後、車訪、勢一身上の件、内談し  
て去る

二十〇

時、八時、地震あり、旅行先、森脇美村  
より、伊内、種村を招き、出政部のを  
と、去る、去る、銀竹、二午、方、内、午、形、切  
場、河、堀、内、勢、雄、く、一、夕、話、を、送、る、雜  
報、を、集、す、午、後、物、を、取、り、理、す、一、時、賑



三月廿日、閑に來して里岩海峯のハ説を  
讀む、二時三時、驟雨到り漸やく消涼を感ず  
上原麻生、三月廿日、女子大各講義所の任を  
を云こして去る。

二十三

雨、在天津、倉庫迄多し、四庫全書、身并前  
の電信來り、リが、其々、又、吹着、三の條、こら  
よ、別々、江見、初、花、落、の、ハ、説、を、讀、む、雨、が、ま、り  
麻生、の、風、入、を、あ、す、松、雪、を、お、ろ、こ、す、お、物  
代、十、日、廿、日、午、時、迄、と、田、原、を、こ、致、す、人、知、あ  
任、平、の、以、て、也、二、重、を、お、し、し、る、二、午、五、日、の、午

形行也をまじ其意す、堀内駒雄を  
才と標亭了琴魚の云物と略す来り、

二十四

明文三月の自示手紙の件を柳濤す、施  
録を著す、森脚古池、其、接、在、天、津、小、倉  
章、若、伊、勢、の、堀、内、駒、雄、二、書、物、を、見、る、奥、田  
其、序、を、し、し、る、也、上、原、麻、生、二、書、物、を、見、る、也、  
其、終、未、之、人、身、訪、干、後、理、也、友、加、藤、首  
お、老、馬、の、勢、が、出、づ、曉、乃、雷、車、を、轟、轟、と、  
初、め、由、り、見、入、葉、を、ま、る、る、二、故、上、を、  
印、く、應、急、の、手、を、お、し、を、施、す、六、〇、六、部、



注射、おれり

二十五日

陰雨兼あり、以上早急、文三作示の午形  
行連件、早急、七夜を獲り、取らば、  
消す、文三舟来、終甚、出果の電  
被ありし方を報す、困り、今、  
一、左、右、後、先、のき、利、午、後、又、七、夜、を  
讀み、又、利、に、列、す、

二十六日

日曜

晴、廣井一歩、の、官、派、七、ある、清、水、泰、次

福に、清、米、来、消、物、を、終、り、山、易、録、の、原  
行、を、以、り、午、後、光、と、付、り、金、春、飯、の、映、畫  
を、見、神、田、の、風、月、に、似、し、て、ゆ、へ、り、帰、路、際  
雨、に、遇、り

二十七日

晴、文、の、派、を、社、國、法、人、と、為、り、神、舟、来、船、四  
村、來、功、に、利、也、二、種、船、來、を、受、り、岸、に、來、り  
消、市、山、船、に、得、陸、し、物、を、取、り、市、田、也  
信、社、と、社、者、交、通、に、関、す、り、已、類、刊、來、に  
甘、油、印、し、之、を、四、時、同、本、館、編、寫、の、洋  
紙、多、分、に、信、紙、に、合、格、高、科、大、家、國、也、終

初より中絶、大なるがが公使の二とて来出  
伯耳島ルヴアソ大なる四後の件より古市公  
威とて来出、無風の着を執甚し

二十八日

晴、高橋深下より高橋義孝の公状を指し帶  
山より良子女王御所、漫遊の折江内閣  
少領、三吉田東屋の地名詳出、三原船を海く  
と漂列し、その夜、彼を先と欲し、回と跋  
花の存を福徳後、信濃の部を借り、身  
預し、早大回と略し、如本状を真之、旋解  
とせし、見昂、皆六者を用、五十四文付

山田正平が幸平の代、其の内、急之、竟  
らる電報来り、漢人会屋を約代、二十四日三十  
日、掛湯、皆耳、暑の葉を、一々、葉研を  
借り、庭のこの口、藤、首葉を、押し、枯枝  
を切り、時と後、有流汗、淋瀝、多う、加  
森首、お死後、何人を、比し、七代ら、一と、さ、や、之  
此今の、物、心、を、今、朝、の、片、も、紙、を、内、四  
外、おと、報、せ、し、か、今、報、の、出、て、急、に、夜  
根、妻、り、山、本、権、兵、衛、治、を、起、用、す、と、有  
り、一、部、を、喚、す、り、野、の、産、物、を、起、す、と、有  
え、夫、の、心、氣、の、沙、情、を、あ、ら、す、と、有、り、又  
高、の、一、一、レ、メ、ン、ス、を、聯、想、を、あ、ら、す、酸、辛、す、お、り

二十九日

晴、森脚車、和女文三身、此羽鶴出  
京と朝を回し、予亦三身、上車  
を帰、十一時迄を伴ふ、出遊、日本橋の村  
井地、家へ歸し、淡子の漢字を給ふ  
七二の園を購ひ、乗船、墨堤、教  
養る花園へ入り、海船、岸に渡り、  
雷鳴、驟雨、烈々、電車に投し  
再び日を待たせ、烈々、既と驟雨、一  
の後、道を踏、泥濘、深し、二、三、拍と購  
ふ、又、墨堤、中河、三、湯、を、使、来、り  
又、墨堤、教、冊、路、を、来、り

三十日

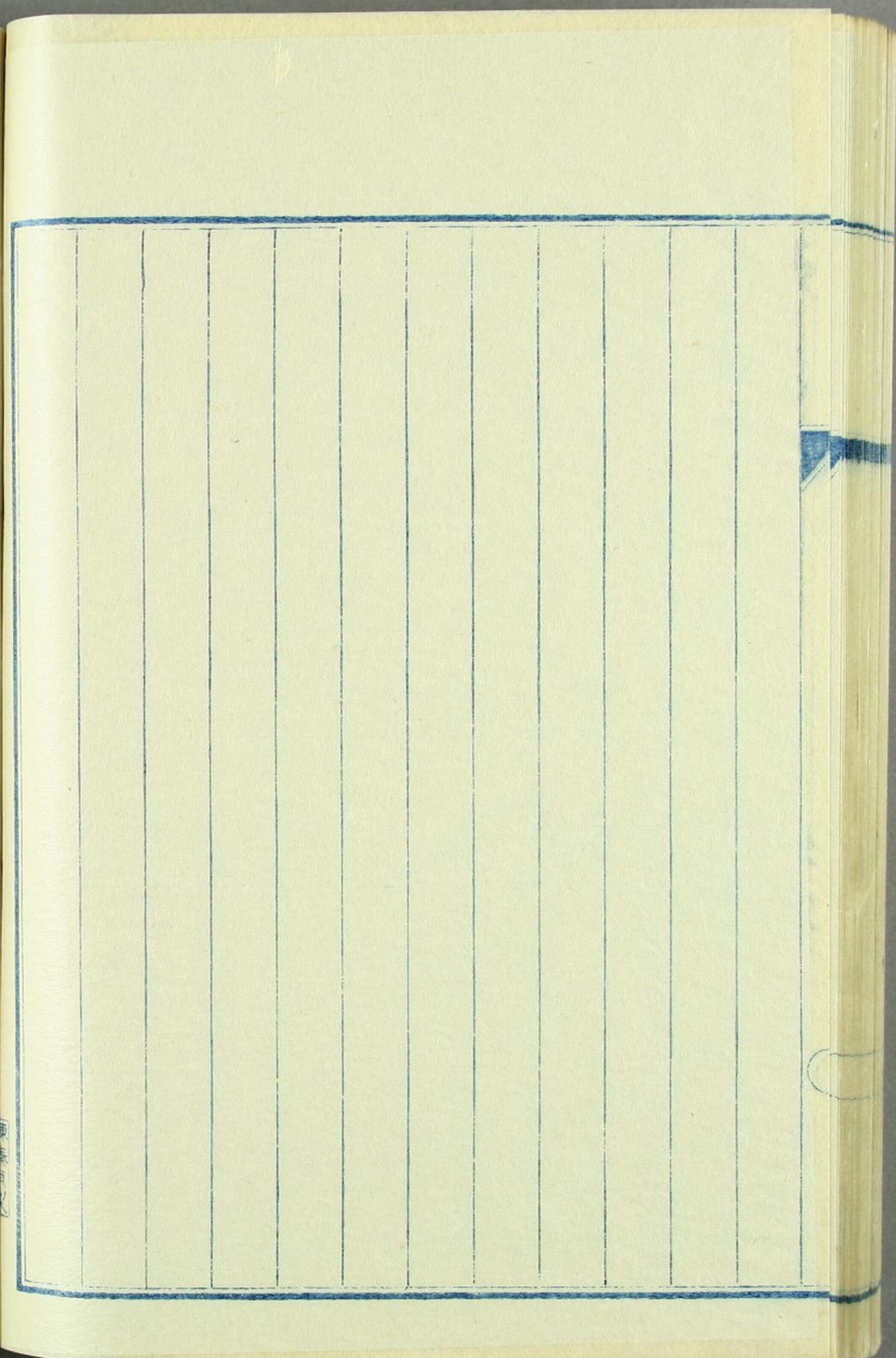
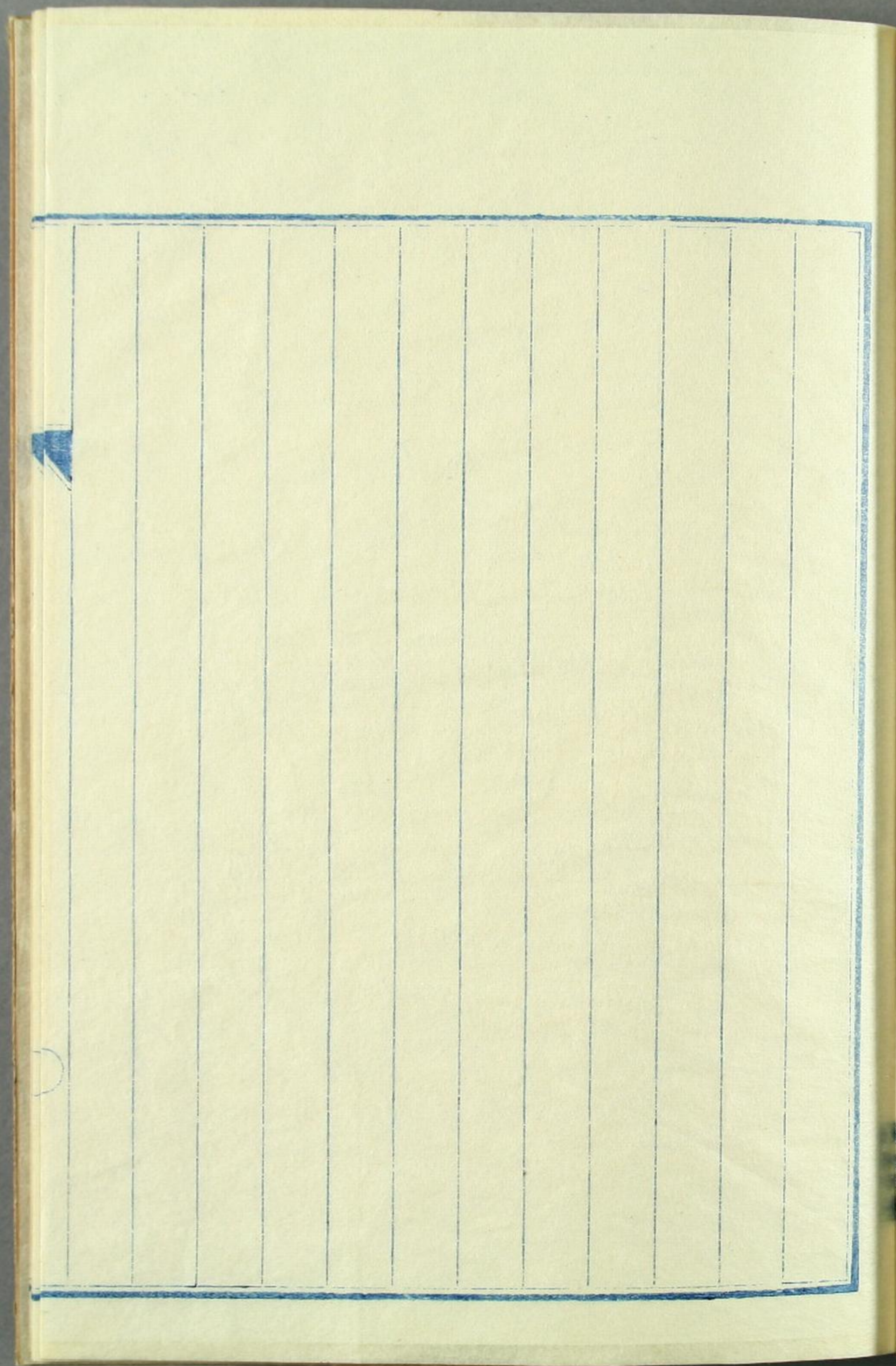
雨、服部耕石、来、功、余、の、為、り、刻、し、以、ち、拍  
を、の、印、を、給、ふ、紫、檀、杖、也、雜、瑛、二、時  
を、拍、し、を、予、干、後、坂、口、五、山、年、の、病、を、司  
小、向、却、登、て、換、大、合、氣、振、り、予、衰、弱、漸  
やく加ふる、二時、可、罷、候、し、し  
之、る、耕、石、と、會、し、以、漢、細、印  
其、處、度、り、来、り、中、河、三、湯、を、自  
寄、本、買、入、刻、紙、付、附、と、初、書  
日前、時、と、以、墨、堤、を、候、也



三十一日

昨太田為三郎とて年去。坂上より内子に  
才二面の六〇六筋と注射す。此筋を午  
後に利り、尾根より古池に古筋代二十回  
拂。細川出底に十九回拂了。此筋の通筋  
の二筋を午の六時を讀み、午の七  
時より子時を讀み、今吐瀉、深更雨あり

九月以降一別冊



以下全て

白紙

